総合ビジネス･情報学科

職位	役職	氏名
教授	学科長	太田　奈緒
教授	副学科長	内海　太祐
教授	理事長	髙野瀬　一晃
教授	学長	髙橋　洋
教授	経理・金融コース主任	加藤　美樹雄
教授		山形　俊之
准教授		石﨑　琢也
准教授	情報メディアコース主任	高木　亜有子
准教授		髙嶋　章雄
講師	ビジネス情報コース主任	金澤　良晃
講師	オフィスワークコース主任	北川　栄里子
講師	ショップマネジメントコース主任	鈴木　孔明
講師	観光ビジネスコース主任	畠山　望
助教		三輪　基敦

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	教授
教員氏名	太田　奈緒

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は2023年度までは生活プロデュース学科の教員として、主にファッションに関する授業を担当しているが、学科長として学科全体にかかわる授業も担当していた。2024年度からは総合ビジネス・情報学科の教員となり、総合ビジネス・情報学科のプレゼミナール、ゼミナールⅠなどを担当するが、引き続き生活プロデュース学科の授業も担当する。2023年度、2024年度の担当科目は別記の通りである。
ファッションコースは将来アパレル販売などを目指す学生が半数を占めるため、コミュニケーション力が増すような授業の組み立てをしている。
「ファッションプロデュース」においては、ファッションショーを企画・運営するための授業であるが、学生たちが主体的に考え行動し、ファッションショーを通して協働の必要性を認識することを目指している。
「ファッション販売論」は生活プロデュース学科と総合ビジネス・情報学科のショップマネジメントコース対象の授業である。ファッション販売能力検定3級の取得を目指す資格対策の授業である。

また課外活動では写真サークルの顧問を務めている。2023年度はコロナ禍では実施できなかった学外での撮影会も行い引率した。またオープンキャンパスでのサークルの活動も行い、学生たちの企画・運営をサポートした。

私の教育の責任は、これらの活動を通じて、学生たちの自主性、自分たちで考えて行動する力を育てることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1)学生たちが自主的に考え行動できるように、見守ること。
　学生たちが、自分たちで考えたことを実行し、例えそれが失敗するとしても、途中で助言はするが手は出さない。失敗することによって、どうすれば成功するのかを考えることが出来るようになることが重要であると考える。

2)専門知識だけでなく、生きていく力を身につけること。
　学生たちが社会に出て、学生とは違う厳しい環境の中でも、自分で考え決断する力を持っていることが重要であると考える。

3)コミュニケーション力・協働力をつけること。
　どんな仕事に就くとしても、一人で働くことは出来ないため、他人とのコミュニケーションの取り方、一緒に働く相手を思いやることが重要であると考える。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上記の理念を実現するために、担当する科目において次のような工夫・方法を行っている。

1)「ファッションプロデュース」においては、モデルクラスと裏方クラスに分かれているが、お互いの理解を深めるために、裏方の学生にモデル学生にインタビューに行かせている。コースの違う学生間でのコミュニケーションは、最初なかなか上手くいかないが、何度も行うことにより、お互いのやりたいことを理解し、ショーの成功という一つの目標に向けて、一つの方向を向くことが出来るようになる。意見の衝突もあったりするが、それも自分たちで解決するように仕向け、一つのものを作り上げるには様々な人とコミュニケーションを取り、調整していかなければならないことを体験することにより学んでもらう。

2)「子どものワークショップ演習Ⅰ」(2023年度までは「布おもちゃ製作」)においては、おもちゃを作る際に対象となる子どもの年齢・性別を考え、それに合ったおもちゃを考えて作ってもらう。どんな遊び方をしてほしいかも考えて作るが、実際に遊んでもらうと全く異なる遊び方をする。またよいと思って選んだ色も、子どもたちにとっては、それほどでもないなど、実体験により学び、次の製作に生かすように助言を与える。

3)「ファッション販売論」では、オンデマンド授業とし、ファッション販売能力検定3級取得に向けた授業を展開している。オンデマンドであるため、わからないところは何度でも視聴でき、各回のミニテストも何度でもチャレンジできる。資格取得には何度でも視聴できることが重要であると思われる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度の授業評価アンケートでは「子供服と小物の演習A」で満足度3.77、「ファッションプロデュース」でも3.45、3.5という高い評価となった。ただ聞くだけの講義ではなく、自分たちで考え、企画し、実行するという授業を行ったことで、失敗体験も含め、達成感を多く感じた学生が多かったからだと考える。

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。他の教員の授業を見学したり、自分の授業に対する教職員からのコメントを活用したりすることで、授業内容を組みなおしている。また授業評価アンケートの自由記述欄の学生からの言葉にも対応するようにしている。
今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。
　Ⅰ. 短期目標
1)担当科目の内容にSDGsの内容を取り入れる
2)担当科目の内容にDXの内容を取り入れる(学生にわかりやすいように日常生活の中でのDXの内容とする)
3)オンデマンド授業を積極的に取り入れる

Ⅱ. 長期目標
1)ジェンダーレスな教育内容を検討する
2)学生たちの興味に合わせ柔軟に活用する
3)学生の興味ある資格を検討し取り入れる

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜5限 ファッション販売論((ファ他))太田　奈緒】
資格対策授業のため、何度も視聴できるオンデマンド授業にした

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜2限 ライフスタイルマネジメントの基礎(全)太田　奈緒】
概ね、満足の様子だが、やや不満に感じている学生が1名程度いることがわかった。大きい教室、大勢での授業が緊張するなどの意見があった。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜3限 ファッションプロデュース__ファ(他)【太田　奈緒】】
例年、リハーサルが多いという意見が少なからずあるが、今年はリハーサルの必要性などをしっかり伝えたため、アンケートでの記述でリハーサルが多いとの意見はなかった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜1限 女性のライフスタイル論__全【太田　奈緒】】
オンデマンド授業を受け忘れる学生が多いため、お知らせなどでリマインドする必要があるかもしれない。来年度からの検討事項とする。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203501	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204001	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
前期	生活プロデュース	2	22213501	ファッションコーディネート演習
後期	生活プロデュース	2	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
前期	生活プロデュース	1	22209001	ファッション販売論
後期	生活プロデュース	1	22206001	子供服と小物の演習
前期	生活プロデュース	1	22237001	布おもちゃ製作

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合）	1・2	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510101	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R6583001	ファッション販売論
前期	生活プロデュース	2	30203501	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	2	30204001	ゼミナールⅡ
前期	生活プロデュース	2	22213501	ファッションコーディネート演習
後期	生活プロデュース	2	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	1	24238701	接客サービス特講
前期	生活プロデュース	1	22209001	ファッション販売論
前期	生活プロデュース	1	R6237001	子どものワークショップ演習Ⅰ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	教授
教員氏名	内海　太祐

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にシステム開発に関する授業を担当している。2022年度の担当科目は、別記のとおりである。

DX化の進展や、それに合わせた初等・中等教育でのプログラミング教育の導入に対応して、本学の情報教育を学生の生きる力とするための教育にするよう心掛けている。

「プログラミング基礎演習」では、プログラミングを学んだことのない学生がプログラミングすることの楽しさを感じられるようにすることを目指している。
「Linux」では、社会の基盤で使われることの多いOSであるLinuxの基本的な操作ができるようになることを目標としている。
「IoT」ではモノにプログラミングを組み込み、それをインターネットに接続したり、AI機能を追加したりすることで、様々なものがネットに接続する社会の仕組みを説明できるようになることを目指している。
私の教育の責任は、これらの情報教育を通じて、激変する社会に対応できる見識とスキルを身に着けさせることで、新しい社会の一端を担う人財を育てることあると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学の教育活動において、学生の自立を促すため、次の点を重視している。

1）受動的に覚えるのではなく、自分の頭で考えるように促すこと。
　大きく変化する社会では、定型的な作業をすることはAIなどにとってかわられる。自ら置かれている環境の中で、疑問や矛盾を見つけ、それを解決することが重要であ。そのためには自立した意思を持つことが大事である。
2）受動的に聞くのではなく、自分の考えを表現できるように促すこと。
　知識をインプットすることを学修だと考えるのではなく、アウトプットをするためのインプットが必要だという考え方を持たせることが重要であると考えている。専門知識は、専門性職の人たちとのコミュニケーションのために重要であり、知識を蒐集することが目的ではないことを態度として身につけさせたい。
3）受動的に決めてもらうのを待つのではなく、自分で決断して実行できるように促すこと。
　仕事や人生を進めていくうえで、大小さまざまな岐路がある。どのルートを選ぶかに正解はないが、それに対して自分なりの答えを持ち、自分で選択できるようになってもらいたい。
4）事実を教えるだけでなく、関係性を理解させること。
　知識を教え込むことは、教育の一つの側面としてあるが、知識がインターネットにあふれた時代では、正しい知識体系を自分の中に形成するための方法を身に着けること、その環境を作り、成長を促すことがより重要となると考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考え方を実現するために、基本的には毎回の授業の後にレポートを書かせ、それに対してフィードバックをかけるようにしている。
レポートを書かせ、フィードバックをかけることにより、学生は自分の考えを客観化することになる。また、他の人に自分のやったことを伝えるための訓練をすることになるし、教員からのフィードバックによって、何が足りていないのかに気づくことができる。
フィードバックをかけることが重要であるので、レポートの採点だけではなく、直接の対話も含む多様な方法で学生とはコミュニケーションをとり、自分の考え方を客観視することで、より幅広い視野を身に着けることができるようになる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生によるアンケート結果は、プログラミング基礎演習については、平均値というよりはその分布に問題があったと思う。試験やレポートの点数を見ても二極分解しており、内容を深く理解している学生とほとんど理解していない学生に分かれてしまったと考える。これは、2つのフロアーの違う教室で実施していたことが大きな理由であると考えている。
コロナ禍ではあるが、より一体感を持たせられるための方策がとれれば良かったと考えており、2023年度においてはこの点を改善したいと思っている。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

I. 短期目標
1）生成AIの台頭もあり、単にレポートを書かせるだけの授業は成立しにくくなっている。口頭試問を取り入れるなどして学生の理解度を確認する。
2）知識を得るための授業についてはできる限りオンライン化、オンデマンド化したり、外部リソースを使用する方向で進めていこうと考えている。教材設定を学生の理解度に合わせるよう、独自のコンテンツを用意することも考えている。

II. ）長期目標
1）プロジェクト実践のプロジェクトを、より社会とつながりのあるものとするため、協力してもらえる組織や人との結びつきを模索する。
2）学内で使用できる、オンライン、オンデマンドのコンテンツを増やし、学生が必要に応じてそれらのコンテンツにアクセスできるようにする。
3）プロジェクト実践に限らず、企業や他大学、地域とのつながりを持った授業を創り、運営していく。
4）卒業生を含んだ社会人に向けた教育を展開していく。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【金曜1・2限 プログラミング基礎演習(P(他))内海　太祐】

■後期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜4限 組み込みプログラミング演習__P【内海　太祐】】
IoTにも言えることだが、一番の問題は、学生に課した課題にフィードバックをかけられなかったことである。単純に時間が取れなかったことが一番であるが、個人の努力でどうにかなることでない。最終的に授業がすべて終わった後に採点してレポートがほとんど改善されていないことを確認することとなった。

対処方法としては、①レポートの頻度を著しく下げる、②サポートの教員をつける、③私の授業以外の業務を減らす、④授業時間内に学生サポートを減らし、レポートの口頭試問で採点するなど、実現性が低いか、教育的に質を下げる方法以外には考えにくい。chatGPTの利用も見られることから、当面④を考えているが、早いうちに②を実現したい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	2	22510602	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511102	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	28562501	Linux
後期	総合ビジネス・情報	2	R2567501	IoT
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
前期	総合ビジネス・情報	1	28501001	プログラミング基礎演習
後期	総合ビジネス・情報	1	R5568001	組み込みプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	総合ビジネス・情報	2	28562501	Linux
後期	総合ビジネス・情報	2	R2567501	IoT
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
後期	総合ビジネス・情報	1	22510102	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	28501001	プログラミング基礎演習
後期	総合ビジネス・情報	1	R5568001	組み込みプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	その他
職名	教授
教員氏名	髙野瀬　一晃

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス情報学科（以下「B学科」）の教員として、主に「国内外の先進的な企業とその経営者」に関する授業を担当している。2022年度の担当科目は「経営者の知恵に学ぶ」である。

この授業では、将来、企業への就職や起業を目指すB学科の学生が、どの様な心構えで社会に巣立って行くかを後押しする事を主眼に、自ら事前レポートの作成を通して、自分ごととして積極的に授業に臨める様に指導している。

今まで聞いた事はあっても、その製品やサービスまでは知らなかった企業の内容を知り、また、その創業者の生い立ち、失敗談、成功に至るまでの試行錯誤や不屈の精神を色々な角度から学習してもらっている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、私自らのビジネス体験も踏まえ、優れた経営者達の知恵を、学生一人一人が、企業活動に留まらず、普段の生活の中に於いても、此れからの長い「人生を活き抜くヒント」にしてもらうことである。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、次に掲げる3点を重視した考えに基づき、教育を行っている。

1）本学の教育理念である「社会でほんとうに役立つ人材を育てる」を学生の立場からみると「自分が、社会でほんとうに役立つ人材になるために、湘北短大で何を学んだら良いだろうか？」という問いに対する答えを常に探し求めるということであろう。その答えを、学修を通じて自ら見出せるように指導することを重視している。

2）授業への参加感は、課された事前の調査レポートを作成する事、更にはそのレポートの内容が、他の受講者の前で披露され、評価される事で大いに高まる。また、自ら調べた事に対する感想や発見を他の受講者と共有する手段として、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に付させることを重視している。

3）本学が目指す「自由闊達にして愉快なる自由学園」の実現には、とにかく教師も学生も「楽しく学ぶ」事が重要であり、常にその事を重視している。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（2. 教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1）「経営者の知恵に学ぶ」では、調査力、検索能力、レポート作成力、プレゼンテーション力を育み、自らが進んで授業内容に取り組めるように指導している。授業では、事前レポート作成という予習方式を積極的に用いている。

2）「経営者の知恵に学ぶ」では、自ら事前の調査レポートを作成するのみならず、他社のレポート内容を聞くことで、多角的なモノの見方が出来るように工夫している。また、学生が、自分の考えを他の受講者とシェアする機会を大切にしている。

3）本年度の授業でも、前年度同様に、授業最終回の試験に替わるプレゼンテーションを2コマ連続（90分x2）で実施することとする。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度の学生による授業評価アンケート結果も、いままで同様に高評価を得られた。今後も、最新のビジネス界の動きにもアンテナを高く掲げて、情報の鮮度管理と授業内容の改善に取組み、学生が実際の生活の中で「経営者の知恵に学べた」と実感できる授業を模索し続けたい。また、私の授業を受講して卒業し、社会で既に活躍している卒業生からの直接のフィードバックも受けて、今後の授業内容の改善につなげていく。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

授業の成否は、学生に課す事前の調査レポートへの努力に負う処が大であるが、2023年度に生成系AI、特に使用が一般化し始めている「ChatGPT」の利用したレポート提出を許可したが、結果は全くの失敗であった。今後、この「ChatGPT」をどの様なルールとガイドラインで学生達に使用させるかが確立されるまでは、「ChatGPTによるレポート提出は不可」とする。一方で、益々進むAI技術を、積極的に取り入れて、学生達が急速に変貌を遂げる「社会でほんとうに役立つ」ようになる為の知恵も同時に磨く事を別の形で達成することを模索したい。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

（記載なし）
（記載なし）

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

特になし。

・関連リンク・別途資料

特になし。

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	総合ビジネス・情報	1	R2580501	経営リーダーの知恵に学ぶ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	総合ビジネス・情報	1	R2580501	経営リーダーの知恵に学ぶ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	その他
職名	教授
教員氏名	髙橋　洋

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、総合ビジネス・情報学科の教員として次元の異なる下記2点を一つの科目の中で並行して教えていきます。
1. 生産から販売に至るトータルバリューチェーンの中のマーケティングの位置づけ及びマーケティング活動に必要な経営資源
2. マーケティング知識のセルフマーケティングへの応用。特に長いキャリアビルディングの過程におけるリソースマネージメントの
大切さ
2024年度の担当科目は、別記「7.担当授業一覧」※のとおりである。
課外では、学長として、実務経験で培った戦略思考や7つの習慣などのノウハウをあらゆる機会をとらえて学生に伝授していきます。
これら課内外の教育活動を通じて、学生が社会にほんとうに役立つ人材として自信をもって羽ばたけるよう導くことが自分の責任だと考えています。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

青は藍より出でて藍より青しが理想です。これまでの人生で得た学びを惜しみなく後進に伝え、学生の成長に資したいです。
ただ、大学で教えるというのは全く未経験なので、まずは学生との接し方から学んでいきたいと思います。
人生の先輩として敬意を持たれながらも気軽に親しまれる教育者が理想です。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

下記ステップで学修の最終目標まで導きたいと思います。
1. いくつか自分が携わったソニー商品の例を挙げながら、会社が財務的に存続している仕組みと、そのバリューチェーンの中で
マーケティングの役割を解き明かす。
2. 学生が知っている商品の例を挙げてもらいながらその商品に使われているマーケティングのプロセスと手法を解説する。
3. それらマーケティング活動に投じられた経営資源を考えさせる。
4. セルフマーケティングも商品と同様のプロセスと手法が応用可能であることを理解させる。
5. セルフマーケティングにおいても商品と同様、必要なリソース（資源）というものがあり、それが豊かであればあるほど
セルフマーケティングが成功しやすいことを理解させる。
6よってキャリアビルディングにおいては自分のリソースマネージメント（時間の有効利用、知識、経験、人脈、情報、スキル、
財力等の獲得と絶え間ない増量）がクリティカルであることを理解させる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

（2024年度着任のため記載なし）

５－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

（2024年度着任のため記載なし）

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

（2024年度着任のため記載なし）
（2024年度着任のため記載なし）

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	総合ビジネス・情報	1	R6584001	キャリアビルディングのためのマーケティング

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	教授
教員氏名	加藤　美樹雄

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に簿記、FPに関する授業を担当している。
2024年度の担当科目は、※別紙のとおりである。

簿記は、将来事務職を目指す総合ビジネス・情報学科の学生が、会社の会計処理をするために重要であることから、様々な会計処理ができるよう指導している。
「初級簿記Ⅰ、Ⅱ」では、簿記の基礎理論を学習することで、複式簿記の原理にしたがって会計処理する力を修得することを目指している。
「中級簿記、上級簿記」では、株式会社の日常の会計処理から、財務諸表を作成することができることを目標としている。

また、課外活動では、バレーボールサークルの顧問として、日々学生の主体的活動を推進している。課外活動の指導においては、学生の健康管理に気をつけるよう努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が社会で活躍できる力を身につけることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。
1）自主的に学ぶことが出来るように、粘り強く指導すること。
　学生たちが、自主的に目標を設定することによって、自ら取り組む姿勢を築くことが重要であることから、学生が達成可能な目標を示し、これをクリアしたらまた次のステップに臨めるよう指導している。

2）専門知識の修得と共に、コミュニケーション能力を身に付けること。
　コミュニケーション能力の育成は、社会人として重要であることから、簿記やFPの学習を通して、他人に説明できる力が付くような内容を授業に盛り込んでいる。

3）課外活動を通じて、人と共生する力、相手を思いやる力を身に付けること。
　課外活動は、社会人として必要な、チームワークや協調性を身につけるように常に意識して指導している。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、「社会で本当に役に立つ人材を育成する」を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「初級簿記」では、企業で役に立つ計算力を育み、その数値の根拠が説明できるよう、 資産・負債・純資産・収益・費用といった項目の中身を理解できるよう指導している。
　授業では、計算問題演習による方法を積極的に用いている。

2)「中級簿記」では、計算する力を育むのみならず、様々な企業の財務諸表を分析することで、企業活動への理解が深まるよう工夫している。学生が、大企業の財務諸表を作成することができるよう、演習問題に触れる機会を大切にしている。

3)前年度の授業では、簿記の計算問題を紙ベースで解くことが主であったことから、本年度の授業ではパソコンを使って計算問題を解くこととした。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度の学生による授業評価アンケート結果は、自宅での学習時間について、1時間以上　との回答が多かった。
これは、eラーニングを使って、学生が何回も復習することが出来るようにしたことが、自宅での学習時間の増加につながったと考える。
また、検定試験については、受験者が減少したことから、簿記検定の取得を明確な目標に掲げて授業を進めたいと考える。

学生支援については、検定の特別講座などでフォローしたことが成果としてあげられる。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。また、学生の授業評価から、改善点を見出し、次年度の授業に活かすようにしている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。
　Ⅰ. 短期目標
　　1）簿記については、検定試験の合格率を向上させる
　　2）eラーニングを積極的に授業に取り入れる
　　3）授業での課題配布、回収のオンライン化の推進
　Ⅱ. 長期目標
　　1）いつでも、学び直しができるような授業環境の整備
　　2）オンライン、対面も同様な効果が出せるようにする
　　3）自身の関連分野で、オンデマンド授業のコンテンツを作る

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜3限 初級簿記Ⅰ（経）加藤 美樹雄】
授業についておれない学生が数名でてしまった。もともと算数が苦手な学生に、eラーニングを活用して、授業外でのフォローをしていく。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜3限 FP基礎論（経（PM以外））加藤 美樹雄】
授業以外の特別補講の実施。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【金曜2限 商業簿記Ⅱ＿経【加藤 美樹雄】】
演習問題を解く際、グループ学習を取り入れた

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【金曜1限 初級簿記Ⅱ＿（ビ）【加藤 美樹雄】】
基礎部分に時間を要し、発展部分は説明が早くなってしまった　発展した学習の部分の時間配分を工夫する

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
前期	総合ビジネス・情報	2	22510606	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511106	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	22524501	中級簿記
後期	総合ビジネス・情報	2	24524701	上級簿記
後期	総合ビジネス・情報	2	R3576501	PC経理実務
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510106	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	22508001	初級簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	22508002	初級簿記Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1	22508501	初級簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22508502	初級簿記Ⅱ
前期	総合ビジネス・情報	1	25523001	商業簿記Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1	25523201	商業簿記Ⅱ
前期	総合ビジネス・情報	1	R3527101	FP基礎論

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1･2	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
前期	総合ビジネス・情報	2	22510604	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511104	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	22524501	中級簿記
後期	総合ビジネス・情報	2	24524701	上級簿記
後期	総合ビジネス・情報	2	R3576501	PC経理実務
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510107	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	22508001	初級簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	22508002	初級簿記Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	22508003	初級簿記Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1	22508501	初級簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22508502	初級簿記Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	R6523201	商業簿記
前期	総合ビジネス・情報	1	R3527101	FP基礎論

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	教授
教員氏名	山形　俊之

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は総合ビジネス・情報学科の教員として主に英語科目と観光関連科目を担当している。国際理解科目科目では、TOEIC Listening and Readingテストの対策授業を担当し、各学生のスコアアップの実現を目標にしている。保育学科の「英語」では、将来就職する幼稚園や保育園で外国人の生徒や保護者に対応できる表現を多く身につけることを目標としている。観光関連科目では国家資格「国内旅行業務取扱管理者」試験対策の授業を担当し、鉄道、観光バス、宿泊施設などの約款や料金・運賃計算について効率よく学び、試験に合格できるようにすることを目標にしている。
課外活動では入職以来、国際交流委員会顧問として学生指導を行っている。学生にはPDCAサイクルに基づく企画運営を身につけさせるほか、社会人としてのマナーや考え方を実践的に学ぶことができるよう努めている。活動全体を通じて人間力を高めるトレーニングになるような場を提供することを心がけている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私が本学での教育活動において重視していることは、以下の4点である
(1)国際理解教育の諸活動を通じて、学生がコミュニケーション力、企画実践力、多様性に対する理解力といった人間力を向上できるようにすること
(2)学生が、英語学習や国際交流活動を通じて、外国事情に関心を持ち、異文化に対する理解を深めること
(3)学生が英語を「ツール」として利用できるようになること
(4)学生が、自ら学びを楽しみ、学ぶための行動ができるようになること

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は教育の理念を実現するために、以下の方法を実践している。
①授業においては、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、実践的なトレーニングの場を多く用意している。これにより英語をツールとして使用する状況を体験学習させることが可能となる。特に音読(スピーキング)に重点を置き、「英語を英語のまま理解する力」の向上を実践する。これによりリスニング力やリーディング力も並行して向上させることができる。また、反転授業の実践やアプリを活用した教材を使用することにより、「楽しみながら学ぶ」環境づくりを心掛けている。
②TOEIC L&Rテスト対策授業では、学生個人のスコアカウンセリングシートを作成し、個別指導を中心とした授業を展開している。またグループワークを行うことで学生自身が自らの弱点を明らかにし、その強化を自らの課題として認識することができるように指導している。また、反復学習により学生が弱点を克服できるように指導している。
③国際交流で学生が実施する活動は、すべてPDCAサイクルを意識させ、社会人と同じように企画実施ができるように指導している。企画そのものも学生にとって非常に責任が重く、時間も労力もかかるものばかりである。それを自ら率先して実施できるようになるには、非常に密な指導が必要となる。この指導はOJTに近いものである。リーダーが選出された時点でリーダー教育を実施し、毎週の定例会を含む一つ一つの企画に企画書や報告書を作成することを徹底し、実施させる。同時に、2年生全体にも指導的立場を意識させることで、リーダー・2年生・1年生という指導ラインを確立させる。そのあとは個々の企画の準備段階から学生とともに行動し、その都度指導をすることで、学生に気づきを与え、企画をより良いものにするための行動を促すようにしている。前期中にFace to Faceのトレーニングをすることで、後期には学生自身が自ら考え、行動できる環境を作っている。
④授業や課外活動といった国際理解教育活動を通じて、学生は留学生とのコミュニケーションや留学中の現地でのコミュニケーションの中で英語をツールとして使用する。そのような実践的な状況の中で学んだ表現は、授業で学んだものよりも定着する。そのため、学生がコミュニケーションをとっているところに赴き、(感覚的には)「そっと教える」ようなサポートするようにしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

TOEIC L&Rテスト対策を講じた「ゼミナール」では、28名中8名が400～495点、5名が500～595点、2名が700点以上を取得した。そして1年半の学習の結果、2年生は平均180点のスコア向上がみられ、1名は425点のスコアアップを達成した。個人指導と反復学習によってこのスコア向上がみられたのは一つの成果として考えられる。
保育学科の「英語」授業内で3回ほどプレイスメントテストとして活用しているTOEIC Bridge L&Rテストの対策を行った(1回につき15分程度。)その結果、ひとクラスは22名中14名にスコア向上がみられ、もうひとクラスも26名中17名にスコア向上がみられた。今年は特にリスニングに集中して対策を行ったが、これは通常の授業においてリスニングとスピーキングに焦点を当てて指導したので、音読によるリスニング力向上トレーニングに慣れていると考えたためである。実際、プレイスメントテストで平均点が低いクラスでもスピーキングやペアワークの過程を楽しんでいたクラスのほうが平均スコアが高かった。このことにより、学習における実践トレーニングが語学力につながることが証明できたのではないかと思われる。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善に向けて、以下のことを実践している
① 学内で開催されているFD活動には欠かさず参加し、授業公開の際には先生方の授業法のいいところを積極的に自分の授業に取り入れている。
② ICT機器を活用した教育手法に関するセミナーに参加し、自らの授業に取り入れる。
③ TOEIC L&Rテスト指導者向けの講座に出席することで、TOEICスコアアップ講師としての知見を深めるように努力している。また、多くの指導者との情報交換を経て得た知見は自らの授業にも取り入れている。オンライン授業でのスイッチャーの導入や、スコアカウンセリングシートはそれによるものである。また、IIBCのセミナーにも積極的に参加し、他大学の事例研究も行っている。
④「国内旅行業務取扱管理者」資格対策授業に関しても、勉強会で知見を深めるほか、他大学で教鞭をとる教員との情報交換を行い、より効果的な授業が展開できるように自己研鑽に努めている。

また今後の目標については以下のとおりである。
短期的な目標としては、
①　　TOEIC L&Rテスト資格対策授業において、授業の目標点数取得者を100%にすること（「TOEIC（初級）」「ゼミナールⅠ」:400点、「TOEIC（中級）」「ゼミナールⅡ」:500点、「ゼミナールⅢ」:550点）
②「国内旅行業務取扱管理者」合格者を受験者の50%にすること。この実現に向けて、非常勤講師との連携により授業内容の精査を常に行っていく。
③　　今年度作成したTOEIC L&Rテスト対策の動画教材「湘北TOEICチャンネル」を活用し、反復授業を授業に取り入れることである。LMSに載せることで本学学生なら自由にアクセスできるようなシステムにしたい。また、目標スコア別に問題を配置することにより、個々の学生の目標達成に資するものにできればと考えている。
中期的な目標としては、スコアアップカウンセリングシートの自動化を進めたい。これによりカウンセリングにかける時間をより多くとることができると考えられるためである。
国際交流活動に関しては、各プログラムの内容を精査し、本学学生の国際理解力向上に資するプログラムを多く実現したい。また、Newcastle大学以外の海外の大学生と活動を通じてコミュニケーションができる場を用意し、学生の異文化理解に資するプログラムを実施したい。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

（記載なし）
（記載なし）

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	国際理解（総合・生活）	2	30GC5101	TOEIC（中級）
前期（集中）	国際理解（全学科）	1・2	26GC6001	海外英語研修
前期	国際理解（総合）	1	31GC3001	イングリッシュ・グラマー
通年	国際理解（保育）	1	26GC1001	英語
通年	国際理解（保育）	1	26GC1002	英語
前期	総合ビジネス・情報	2	22510604	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511104	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510102	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	22555501	観光地理
前期	総合ビジネス・情報	1	31577501	旅行業約款
前期	総合ビジネス・情報	1	31578001	旅行業法
前期	総合ビジネス・情報	1	R2581001	国内旅行実務

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	国際理解（総合・生活）	2	30GC5101	TOEIC（中級）
前期（集中）	国際理解（全学科）	2	26GC6001	海外英語研修
前期（集中）	国際理解（全学科）	1	R6GC6001	海外研修
前期（集中）	国際理解（全学科）	1	R6GC6002	海外研修
前期	国際理解（総合）	1	26GC0501	ジェネラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ
通年	国際理解（保育）	1	26GC1001	英語
通年	国際理解（保育）	1	26GC1002	英語
前期	総合ビジネス・情報	2	22510602	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511102	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510103	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	31577501	旅行業約款
前期	総合ビジネス・情報	1	31578001	旅行業法
前期	総合ビジネス・情報	1	R2581001	国内旅行実務

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	准教授
教員氏名	石﨑　琢也

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にビジネスや経営学に関わる授業を担当している。2022年度の担当科目は、別記のとおりである。
これらの科目を通じて、私は総合ビジネス・情報学科の学生がビジネスパーソンとして現場で役に立つ知識を修得できるよう指導している。
「ビジネス社会の基礎Ⅰ」では、会社のしくみや形態、制度といったビジネス上のルールやしくみや構造に関する知識の修得を目指している。
「ビジネス社会の基礎Ⅱ」では、ビジネス上のルールやしくみのもとで個々の会社がどのように行動しているのか、会社の行動を規定する戦略に関する知識習得を目指している。
「現代ビジネス事情」では、企業の経営戦略に焦点を当て、現代のビジネス事情を深く理解することを目標にしている。
「インターンシップリテラシー」では、インターンシップ（現場実習）で必要となる知識と行動力の修得を目指している。
「ゼミナールⅠ」では、企業によるイノベーションやマネジメントに関する知識修得を目指している。
「ゼミナールⅡ」では、これまで学んだビジネス知識の定着と強化を目的にビジネスアイデアコンテストへの参加を目指している。
「ゼミナールⅢ」では、ビジネスをテーマとした論文執筆を通じて考察力、表現力、論理力の強化を目指している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。
(1)体系的知識の獲得
　ビジネスに関連するあらゆる知識は、ビジネスパーソンとして活動していくうえでの土台となる。その土台がより強固で広がりを持つためには、知識が体系的に整理されなおかつ定着していることが大切である。
(2)主体性
　知識は発揮されて初めて意味を持つ。そのためには自らの意思や判断に基づいた意欲的な行動が不可欠である。
(3)論理力
　論理的思考力をベースとして、論理的に読み、書き、話すことは、自らの行動に一貫性を生み出すとともに、周囲の納得しや行動をも生み出す。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。
（1）体系的知識の獲得
「ビジネス社会の基礎Ⅰ」「ビジネス社会の基礎Ⅱ」「現代ビジネス事情」といった一連の科目では、常にそれぞれの科目間のつながりや位置づけを提示し、相互補完関係にあるよう内容を調整している。
（2）主体性
学生が自らの意思や判断に基づいて行動できるようになることが目標である。そのためにまずは全ての担当科目で、主体性の第一歩となる「自発的な発言」を奨励している。
（3）論理力
「ビジネス社会の基礎Ⅰ」「ビジネス社会の基礎Ⅱ」「ゼミナールⅢ」といった科目では、意識的に長文のレポート執筆、卒業論文執筆、プレゼンテーションを課し、論理的思考力の獲得を目指している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

今年度印象的であった点は、グループワークとグループプレゼンテーションに対するコメントが多く寄せられたことであった。とくにグループプレゼンテーションに対する好意的なコメントが多く寄せられた。例えば、「グループでプレゼンを行ったことで、多方面からの意見や考え方を知ることができ、ためになったと感じました。」や「これから社会に出るにあたって、会社はどのような仕組みなのかを知ることができた授業でした。グループワークでプレゼンを行ったとき、内容をまとめるのは凄く難しかったのですが、企業の背景を知ることの面白みを実感できました。」といったコメントから好印象であったことが分かる。その一方で評価の公平性が強く求められていることも分かった。例えば「プレゼンのスライドづくりに一切参加しなかった人にもチャンスをあげようとするのは良いですが、本来発表予定だった人に内容を「譲ってあげて」と頼むのは間違いだと思いました。」というコメントから学生がフリーライドに対して快く思っていないことと評価の公平性を求めていることが分かる。これらのことから次年度は、より学生たちの活動状況を観察し、的確な対応を心がけていきたい。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

授業全般について、学生のニーズを満たすとともに、学力向上につながるように授業内容、配布資料、ティーチングスタイルなをを適宜アップデートしていきたい。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■ 《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》 【水曜4限 ビジネス社会の基礎Ⅰ（オ観）石﨑　琢也】 学生が発言する機会を増やす。
（記載なし）

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0202	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0402	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0502	インターンシップリテラシー
後期	就業力育成（総合・生活）	2	26BU0401	キャリアブラッシュアップ
前期	総合ビジネス・情報	2	22510605	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511105	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22515001	現代ビジネス事情
前期	総合ビジネス・情報	2	23507005	ビジネス社会の基礎Ⅰ（留）
後期	総合ビジネス・情報	2	23507505	ビジネス社会の基礎Ⅱ（留）
前期	総合ビジネス・情報	1	23507001	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507002	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507003	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507004	ビジネス社会の基礎Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507501	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507502	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507503	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507504	ビジネス社会の基礎Ⅱ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510104	ゼミナールⅠ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1･2	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
前期	インターンシップ（総合・生活）	1	R5IS0101	夏季インターンシップ（長期）
前期	インターンシップ（総合・生活）	1	R5IS0201	夏季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0205	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0405	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（生活）	1	26IS0505	インターンシップリテラシー
後期	就業力育成（総合・生活）	2	26BU0401	キャリアブラッシュアップ
前期	総合ビジネス・情報	2	22510603	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511103	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22515001	現代ビジネス事情
前期	総合ビジネス・情報	2	23507005	ビジネス社会の基礎Ⅰ（留）
後期	総合ビジネス・情報	2	23507505	ビジネス社会の基礎Ⅱ（留）
前期	総合ビジネス・情報	1	23507001	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507002	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507003	ビジネス社会の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	23507004	ビジネス社会の基礎Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507501	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507502	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507503	ビジネス社会の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	23507504	ビジネス社会の基礎Ⅱ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510105	ゼミナールⅠ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	准教授
教員氏名	高木　亜有子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学　総合ビジネス・情報学科　の教員として、主にWeb、CG、ゲームに関する授業を担当している。2023年度の担当科目は別記のとおりである。
「Javaプログラミング演習」では、統合開発環境ソフトのEclipseを用いて、Javaのプログラミング技術を習得することを目指している。
「WEB基礎」では、HTMLとCSSを学び、簡単なWebページを作成できるようになることを目標としている。「CG基礎」ではAdobe Photoshop、Adobe Illustratorというソフトウェアを用いて写真加工や画像素材を作成し、Webページ作成に活用できるようになることを目標としている。この授業は全てオンデマンド形式で実施している。
「ゲームデザイン」では、ゲームの仕組みを学び、グループでゲームを作成し、発表する体験を通じて、共同制作のノウハウやコミュニケーション、タスク管理、プレゼンテーション能力を身に着けることを目標としている。
「CG理論」ではコンピュータグラフィックスの理論を学び、適切に画像加工や画像処理を行い、コンピュータグラフィックスを活用するための知識の修得を目指している。一部オンデマンド形式で実施している。
「プロジェクト実践II」「プロジェクト実践III」ではプロジェクトの企画・計画・推進を行い、グループワークを通じて、他者と協働するための力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、スケジュール管理能力を身に着けることを目標としている。
「インターンシップリテラシー」では、インターンシップ時に必要なビジネスマナーや心構えを身に着けることを目標としている。
「プレゼミナール」では、履修指導やサークル・委員会活動の紹介、メンタルヘルス、卒業生からの話、ゼミ紹介など、様々な内容を実施し、1年生が充実した学生生活を送れるようになることを目標としている。
「ゼミナールI・II・III」では、テーマを「ゲーム制作」とし、学生が協働してゲームを作成し、その成果を東京ゲームショウ等の外部のイベントで発表することで、グループワーク、協働作業に必要なコミュニケーション能力、他者へのゲーム説明を通じたプレゼンテーション能力、お客様対応能力を身に着けることを目標としている。
「ファッションデザイン演習」では、生活プロデュース学科の学生を対象に、自分の好みを知り、デザインや企画を考えた後、雑誌の表紙やチラシとして魅力的な表現ができるようになることを目標としている。
「ビジネスに役立つ教養とDX」はオムニバスのリベラルアーツ科目として複数教員で担当し、私が担当の2回分の授業ではコミュニケーションサービスを活用し、グループワークへ応用できるようになることを目標としている。

また、課外活動では、湘北祭出店管理部門の顧問として、湘北祭が円滑に実施できるようにサポートしている。また、ゲームサークル、イラストサークルの顧問をしている。課外活動の指導においては、学生が自ら発案し行動できるように見守り、助けが必要な場合に適切なアドバイスをするよう努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が自立した社会人となり、社会で活躍できるようにすることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。
1）自分の力で考え、決断し、行動できるように、様々な体験の機会を用意すること
プロジェクト型の学習を通じて、教員から答えを教えてもらう学びではなく、自ら答えや問題解決方法を見つけることができる力を身に着けて欲しい。
2）PCを活用し、社会でITを活用できる能力を身に着けること。
用意されたソフトウェアを使うだけでなく、プログラミングやWebページ制作等、新たなサービスを社会に提供できる人材となって欲しい。
3）学内だけでなく、学外の人との交流ができるようなイベントに参加すること
仕事では、社内の人、お客様等、様々な立場の人とのコミュニケーションが必要となるため、学内の人だけでなく、学外の人との交流ができるようなイベント（東京ゲームショウ、ゲームマーケット、Global Game Jam等）に参加して、コミュニケーション能力を伸ばして欲しい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている
1）「Javaプログラミング演習」では、教員の用意したプログラムを模写することで、Javaの基本文法、Eclipseの使い方を学び、徐々に課題の難易度を挙げて、自らアルゴリズムを考えて設計するように指導している。
2）「WEB基礎」では、始めのうちは提示された手順での作業を通じてWebページの作成方法を学び、最終課題ではグループで与えられたテーマ内で自由にWebサイトを作成するように指導している。
3）「CG基礎」は、オンデマンドの科目として、ソフトウェアの操作方法や課題の制作方法を動画で準備し、学生がいつでも操作を確認してソフトウェアの操作方法を身に着け、様々な図や画像が作成できるように指導している。
4）「ゲームデザイン」では、ゲームの体験を通じて、学生がどのように思考しているのかを自ら振り返り発表をさせ、最終課題では自らの考えたオリジナルのゲーム制作し、テストプレイを通じて問題点を挙げてブラッシュアップを重ね、より良い作品を作るように導いている。また、作るだけではなく、他の人の作品を体験し、意見をすることで、コミュニケーション能力や、観察能力を伸ばし、発表を通じてプレゼンテーション能力を伸ばすように機会を設定している。
5）「CG理論」ではCGの理論を学びを深めるために、一眼レフカメラでの撮影や、CGソフトウェアによる画像加工の方法など、適宜実技を交えながら知識の修得を目指している。CGソフトウェアの操作方法はオンデマンド教材として、いつでも確認ができるように準備している。あらかじめ動画教材で予習をする「反転授業」を一部取り入れ、前もって質問を受け付け、授業内で回答するようにしている。
6）「プロジェクト実践II」「プロジェクト実践III」では学生が選んだプロジェクトを自ら成功させるために、毎週の進捗状況の確認と、適切なアドバイスを与えている。最後の発表会を通じて、自分のプロジェクトだけでなく、他の人のプロジェクトを見たり聞いたり意見をしたりなど、クラス全体の学びの機会としている。
7）「ゼミナールI・II・III」では、自分たちで作成したゲームを必ず外部に向けて発表するようにしている。東京ゲームショウや湘北祭、ゲームマーケットや各種コンテストで発表し、学外のお客様の反応を見ることで、自ら作成した作品に対する振り返りは評価を肌で感じることができる。
8）「ファッションデザイン演習」では、生活プロデュース学科の学生がPCを使って自分の好みのファッション等を表現できるように、作品事例はあまり出さずに学生自身が自らアイデアを発案できるようにアドバイスをしている。
9）「ビジネスに役立つ教養とDX」では、オンデマンドでありながら、資料を複数人で編集し、各種コミュニケーションサービスを活用できるような課題を設定している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業評価アンケートの結果は、正直あまり芳しくない。
他の科目と比較すると、私が担当する科目はWeb制作やゲーム制作等、時間外の作業が多くなることで、学生への負担が大きくなり、結果として授業の評価としては低いものになっていると考えられる。かといって、授業時間外の作業無くして作品は作れないため、評価を上げるために作業量を減らすということは、技術が身に付かず、最終的には学生のためにならないと考える。
毎年、学生作品をWebサイトで公開していることで、入学前から高木ゼミに入りたいという学生もいることから、一定の成果として挙げられるのではないか（広報、学生募集、学生の学習に対する達成感）。
オンデマンド教材とCGソフトウェアを扱う授業との親和性は高く、アンケートの自由記述欄を見ると、「授業内容をいつでも見直しできる」、「自分のペースで作業を進めることができる」など、好意的な意見が多かった。
学生が自らのPCで作業を行う授業では、割り当てられた教室によって学習効果の差が大きいと感じる。例えば、144教室等のPC教室であれば、教員の作業画面が学生のすぐ横のモニタで確認できるが、411教室等の一般教室では、教員の作業画面を教室前方のスクリーンで確認することとなり、学生の作業画面との視線移動の距離が大きく、必然的に作業時間が遅くなることが多かった。事前にわかりやすい資料を準備するなどの工夫が必要だと考えられる。今年度は幸いにPC教室で授業を行うことができ、一般教室での作業と比較して学生の学習効果も向上していることがわかった。また、授業の録画動画を用意することで、学生が授業内容を振り返ることができるようにしたことも学習効果向上の一因だと考えられる。
学生との交流のため、discordサーバーを運用している。授業やゼミだけでなく、サークル活動等でも使用しており、学生が気軽に質問したり、学生同士の交流のために活用している。実際に作業会などを設け、画面共有機能などを使い、各ソフトウェアの操作方法を学習している。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善の取り組みとして、外部のセミナーや、他大学の教員の授業についての講演などに参加している。オンラインで手軽に参加できるセミナーが増え、ITのツールの活用方法などを学び、オンライン授業のみならず、対面授業においてもグループワークの活性化につながった。
今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次の通りである。
I.短期目標
　1)学生の自己評価を高めるための工夫(学習成果の可視化、フィードバック、ほめるなど)
　2)オンデマンド教材の開発(IDの活用、よりわかりやすい資料作成など)
　3)オンラインツールを活用したグループワークの促進
II.長期目標
　1)チャレンジ精神を忘れずに、様々なことに積極的にチャレンジできる学生の育成
　2)グループワークにおけるフリーライド問題への解決、各々の作業の可視化
　3)一人ひとりの能力やニーズに合わせた学習方法、課題設定、質問への回答、アドバイス方法など

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

（記載なし）
（記載なし）

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

湘北Eラーニング

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0203	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0403	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0503	インターンシップリテラシー
前期	総合ビジネス・情報	2	22510607	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511107	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	28561501	Javaプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	2	28564001	ゲームデザイン
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510103	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R3503001	WEB基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II
前期	総合ビジネス・情報	1	R3503501	CG基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	28574501	CG理論
前期	生活プロデュース	2	R2206501	ファッションデザイン演習

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1・2	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0201	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0401	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0501	インターンシップリテラシー
後期	インターンシップ（総合）	2	26IS0508	インターンシップリテラシー（留）
前期	総合ビジネス・情報	2	22510605	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511105	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	28561501	Javaプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	2	28564001	ゲームデザイン
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510104	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R3503001	WEB基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II
通年	総合ビジネス・情報	1	R3503501	CG基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	28574501	CG理論
前期	生活プロデュース	2	R2206501	ファッションデザイン演習

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	准教授
教員氏名	髙嶋　章雄

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主にプログラミングとメディアデザインに関する授業を担当している。
2023年度の担当科目は、別記のとおりである。

主にプログラミングを学ぶ「Javaプログラミング 」「WEBプログラミング 」「プログラミング応用演習」では、学生が、模写ではなくオリジナルのプログラムを作成することで、課題を解決するための論理的な考え方や、PC上で解を具現化する情報系スキルを獲得することを目指している。

「社会人のためのAI活用入門」では、近年急速に発展しているAIやデータサイエンスの技術に関し、一部演習を取り入れながらその利活用に関する基本的な知識を身につけることを目標としている。

「情報科学の基礎」およびLA科目「情報リテラシー」では、学生が、情報技術の意義を理解し、コンピュータの基本的な知識を整理し、実社会で情報技術がどのように活用されているかを把握することを目標としている。

「ビジュアルコミュニケーション」では、学生が、情報の伝達手段としての視覚的な表現について、基礎的な理論を学び、表現の効果的な利用方法を身につけること、およびプレゼンテーション資料作成や報告書作成など、オフィスワークにおける情報伝達において視覚情報を取り入れる有用性を理解することを目標としている。

「プロジェクト実践I・II・III・IV」では、学生が、個人プロジェクト、グループプロジェクトを通じ、目的・目標設定、計画、情報分析、課題解決、制作・表現などのプロセスを実践的に学ぶことで、プロジェクト遂行のための基本的な知識と進め方を身につけることを目標としている。

「ゼミナールI・II・III」では、学生が、地域の店舗や事業所を紹介する活動を通じ、他者とのコミュニケーションをとりながらプロジェクト遂行のための基本的な知識と進め方を身につけることを目標としている。

また、課外活動では、湘北祭実行委員広報部門の顧問として、チラシやパンフレット制作をサポートしている。課外活動の指導においては、学生の主体性を尊重し、必要以上の誘導や指示を行わないよう留意している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、高度な情報化社会において情報技術を活用し自らの手で物事を作り上げる学生を育成することであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。
1）情報化社会を担う人材に必要な基本的知識・技術の伝達
2）実社会を意識した理論と実践の提供
3）自ら考え、学び取り、自ら行動する力の醸成

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

今後の情報化社会を担う人材育成において、まずは既存の情報技術を臆せず試用することが起点になり得ると考え、「情報科学の基礎」や「プロジェクト実践I・II・III・IV」「ゼミナールI・II・III」においてIT活用方法を取り入れた授業を展開した。特にコミュニケーションツールとしてslackの利用、プロジェクト管理ツールとしてのJootoの利用、様々な業務に活用できる生成AIサービスの利用を通じ、技術的な単語を知識として知っているレベルから手を動かして内容を把握するレベルへの引き上げを意識的に行っている。また、実社会における働き方の多様化を念頭に「ゼミナールIII」において一部の回をハイフレックス型で実施し、学生に主体的に参加形態を選択させた。

2023年度新規科目の「情報リテラシー」は、フルオンデマンドの科目であった。インストラクショナルデザインを導入し、例えばディプロマポリシーとの関連を明示したり、テストファーストでスライドを作成したり、マイクロラーニングを取り入れるなどした。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

「情報リテラシー」の総合評価は3.32ポイントで、LA科目平均（3.39ポイント）と同程度の値であった。とても満足が39.5%（59名）満足が53.5%（69名）であり、93%の学生がポジティブな回答を示していることから、フルオンデマンド科目ではあるが、学生は悪い印象を持っていないことがわかる。
自由記述からは、自分のペースで進めたり自由に振り返ったりできるオンデマンドの良さと、短い動画と確認テストを繰り返すマイクロラーニングの良さに対するポジティブな意見が多くみられ、インストラクショナルデザインの効果が得られたと考えられる。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。
Ⅰ. 短期目標
　1)オンデマンド科目においてインストラクショナルデザインを実践する（情報科学（データサイエンス入門)・ビジネスに役立つ教養とDX）
　2)AIサービスを試用させて学びを深める機会を授業に取り入れる（情報科学・社会人のためのAI活用入門・プロジェクト実践・ゼミナール）
Ⅱ. 長期目標
　1)ICTを活用した新しい教育スタイル・手法について、継続的に調査・検討する
　2)ICT技術に関する基礎と応用のバランスを保ちつつ、学生が新技術に触れる機会を継続して提供する

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

（記載なし）
（記載なし）

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（総合・生活）	1	R5LA0401	情報リテラシー
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（生活）	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
前期	総合ビジネス・情報	2	22510608	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511108	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	28561001	Javaプログラミング
後期	総合ビジネス・情報	2	R3564501	社会人のためのAI活用入門
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
前期	総合ビジネス・情報	2	28576001	WEBプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510105	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509004	情報科学の基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	R5567501	プログラミング応用演習
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II
後期	総合ビジネス・情報	1	28571501	ビジュアルコミュニケーション

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（総合・生活）	1	R6LA0401	情報リテラシー（データサイエンス入門）
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（生活）	1・2	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
前期	総合ビジネス・情報	2	22510606	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511106	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	R3564501	社会人のためのAI活用入門
後期	総合ビジネス・情報	2	R5581501	社会で役立つプログラミング思考
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
前期	総合ビジネス・情報	2	28576001	WEBプログラミング
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510106	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509004	情報科学の基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	R5567501	プログラミング応用演習
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II
後期	総合ビジネス・情報	1	28571501	ビジュアルコミュニケーション

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	講師
教員氏名	金澤　良晃

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に「PC活用ベーシックⅠ」「情報科学の基礎」、「MOS実践」、「事務職のためのExcel応用（VBA）」、「データ分析演習」、「デスクワーク入門」、「ビジネスに役立つ教養とDX」といった情報系に関する授業を担当している。PCの基礎知識や応用的な操作は、DX人材を育てるうえで欠かせない事項であることから、IT技術を効果的に活用できる人材を育てていく。
また「インターンシップ・リテラシー」授業も担当している。インターンシップの目的を伝え、より有益な実習が行えるように導いている。

「PC活用ベーシックⅠ」では、湘北の様々な授業課題に取り組めるIT知識を教えるだけでなく、就職活動におけるメールやファイルの取り扱い方なども含めて習得させることを目的としている。

「情報科学」では、コンピュータの基本的な仕組みを理解することで、学生が自分に必要な情報技術を、自分で選択できるようになることを目的としている。

「MOS実践」では、MOS Excel資格を取得することによって、事務で必要とされるExcelの基本操作を習得することを目的としている。

「デスクワーク入門」では、日商PC検定3級（データ活用）取得を目指し、パソコンやデータ活用の基礎知識を習得することを目的としている。

「データ分析演習」では、実務で行うデータ分析を体験することで、データを使った問題解決の手法を習得することを目指している。

「事務職のためのExcel応用（VBA）」では、小さな単純命令を組み合わせて、事務作業の自動化を推進できる人材を育てることを目的としている。

「ゼミナールⅠ」では、Excelによる基本的なデータ分析の活用法習得を目的に、「エクセル分析ベーシック」資格の合格を目指している。

「ゼミナールⅡ」では、これまで大学で学習したビジネス知識を活かし、新たなビジネスアイデアの創出に挑戦する。身近な問題をビジネスで解決する力を育むことを目的としている。

「ゼミナールⅢ」では、ゼミナールⅡで生み出したビジネスアイデアをさらに具体化させることを目指す。Webサイト制作を通じて、顧客にアイデアの魅力を伝える力を養う。

「インターンシップリテラシー」では、インターンシップの目的や、社会人としての心構え、マナーなどをしっかりと身につけさせることを目的とする。

「ビジネスに役立つ教養とDX」では、生活プロデュース学科の学生に対して基礎的な情報科学について解説している。

また課外活動では、調査広報部の顧問として、学生の意見や活動を尊重しつつ、自身の広報経験などを元に支援している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。
1）目的を明確化し、そのためのスモールステップ（小目標）や筋道を設定することで、学生が主体的に学ぶ姿勢を継続する。これを繰り返すことで好循環を発生させ、目的達成に導いていく。
2）実務で活かせるビジネス知識やPC活用法を伝授する。私の実務における成功や失敗の経験を伝え、学習している知識やPC操作がどのように活用できるか想像できるようにする。
3）社会人として求められるコミュニケーション力を育成する。不明点があった場合の質問の仕方、遅刻/欠席する場合の連絡の仕方、ミスをした時の責任の取り方など、実社会でも重要となる基本的なやり取りを、授業内外で指導していく。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1）「PC活用ベーシック」では、自作のテキストと市販のテキストを組み合わせて授業を行った。自作テキストは、主に学内IT環境・メールの書き方・Googleドライブの使い方などを扱い、市販テキストにない部分を補っている。

2）「情報科学の基礎」では、コンピュータに関する興味関心を高める工夫をしている。例えば、音のデジタル化では音を聞き比べる、手作業でデータを暗号化し友達に送ってみる、など。
また、コンピュータの基本的な仕組みを理解してもらうために、文系でも理解できる言葉遣いやイラストを入れて、丁寧な資料作りと説明を心がけている。資料は穴埋め式にして、学生の手を動かし退屈しないように工夫している。

3）「MOS実践」では、単にExcelの使い方を教えるのみならず、なぜこんな機能があるのか、いつこのような機能を使うのかなどを含めて説明するよう工夫している。学生が、自らPCを操作し、できなかった問題を重点的に復習できるように「自己管理シート」に学習記録を付けさせている。また各設問を学生に解説してもらう反転授業を導入している。これらが合格や知識習得に向けた効率の良い学習法となっている。

4）「デスクワーク入門」では反転学習を取り入れ、班で調査した問題を授業内で発表させている。その発表を聴いた学生たちは、Googleフォームにコメントを入力する。教員は全員の評価を集計して発表者にフィードバックすることで、次回以降の参考にしてもらう工夫をしている。

5）「データ分析演習」では、単にExcel操作を習得させるのではなく、「何のためにこの分析を行うのか」や、出来上がった集計表やグラフを見て「そこから何が言えるのか」といったことを考えさせることを重視している。また反転授業で学生による解説を行ったり、実企業のデータを借りて分析しレポートに纏めさせた。

6）「事務職のためのExcel応用（VBA）」では、まずテキストに沿って基本的なVBAコードの書き方を習得させる。その後、ChatGPTなどの生成AIを活用して、より高度なプログラムを組めるように工夫している。

7）「ゼミナールⅠ」では、演習に重きを置き、練習課題や模擬問題を繰り返し解かせるようにしている。また多くの学生が間違えた問題を中心に、丁寧に解説している。授業動画を録画して即日湘北eラーニングにアップし、欠席した学生や、理解度が低い学生がいつでも何回でも動画を見て学習できるように工夫している。

8）「ゼミナールⅡ」では、ビジネスアイデアを考えやすいリラックスした雰囲気を出すことを心掛けている。ゲーム形式でアイデアを考えたり、ブレインストーミングで発散させたりしている。

9）「ゼミナールⅢ」では、外部のビジネスコンテストに応募した。また卒業論文を書かせることで、アイデアを他人が読んで理解できる力を育てた。

10）「インターンシップリテラシー」では、キャリア教育センター長をはじめ他教員とも協力し合いながら、授業を組み立てていく。学生に飽きが来ないように、PowerPointで写真や動画を見せたり、ロールプレイをしたり工夫している。

11）「ビジネスに役立つ教養とDX」では、情報科学のパートを担当している。解説動画の視聴時間を極力短くし、課題への取り組みに時間をかけるよう工夫している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

「情報科学の基礎」の授業評価アンケートでは、「パワポが見やすかったり、実際のものも見れて貴重な体験でした。」「パソコンの技術は今まで全然なかったのでこの授業を受けて少しは身についた」という声があった。これは文系学生にとっても分かりやすい資料・説明表現を心がけてきた結果であると考える。

「MOS実践」では、受講者52人中42人がMOS Excelを受験し、その内41人が合格できた。（合格率97.6%）これは自己管理シートに基づき、学生たちが主体的に学習内容を管理できる仕組みを徹底させた成果であるといえる。

「デスクワーク入門」では、日商PC検定（データ活用）3級の知識科目を担当した。受講者58名中50名が受験し、知識科目については49名が合格基準である70%以上の点を取得できた。これは1問ずつ学生自身に問題を調査させ、主体的に学習できる環境を整えた結果であると考える。

「データ分析演習」では、反転授業を行ったことで「エクセルの問題を自分たちが解説するのは、すごくいいなと思いました。他人に教えることで自分の理解力が高まる。」という声が多数あった。

「ゼミナールⅠ」では、エクセル分析ベーシック検定の受験者数は16名中11名、合格者は8名だった。学内受験を可能にしたメリットとして、「1度落ちても、無料で再チャレンジできる」という制度を活用できた。これにより2名が追加合格となった。

「ゼミナールⅡ」では、石﨑先生・鈴木先生のゼミと共同し「学内ビジネスコンテスト」を開催した。小田急電鉄の協力を得て学生たちに大きな学びの場を提供できた。神奈川新聞、タウンニュース、あゆチャンネルのメディア取材も受けることができた。

「ゼミナールⅢ」では、ゼミⅡで考案したビジネスアイデアを元に、全員が仮想のWebサイトを制作することができた。一人ひとりのアイデアを相互にチェックし合い、教員による細かい指導により完成度の高いものとなった。

「インターンシップリテラシー」では、学生たちにインターンシップに対する取り組み姿勢をしっかり伝えることができたと感じている。欠席者や居眠りも少なく、みんな真剣に授業に参加していた。

「ビジネスに役立つ教養とDX」では、分かり易い動画コンテンツと取り組みやすい課題を提供したことで、ほぼ全受講者に受講・課題提出してもらうことができた。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

今後学内で開催されるFD活動や、授業公開見学に積極的に参加して、自身の授業改善に資することを取り入れていく。また学生アンケートの内容を受け止め、以下の通り次の授業改善へとつなげる。

「情報科学の基礎」ではBYODに対応しているため、よりPCを活用した授業内容にして学生たちの興味や学習意欲を向上させていく。

「MOS実践」では、反転授業を取り入れ学生による主体的な学びができる環境を整えていく。また個人管理表をクラウド上で管理できるようにしていく。また学内受験ができる体制を整えていく。

「デスクワーク入門」のアンケートでは、「授業後に特に気をつける問題や先生の補足の説明をeラーニングに簡単にまとめて欲しい」という声があった。これまで口頭による補足や解説はしていたが、今年度から文書でも提供していく。

「データ分析演習」のアンケートでは、「学んだことの復習や確認として、中間テストを行って欲しい」「発表の機会が1度きりで、自分の担当部分以外は評価を書くだけなので、定着できていないと感じる部分があった。」という声があった。そのため、今年度から中間テストを行うことを検討したい。

「事務職のためのExcel応用（VBA）」では、ChatGPTを効果的に活用し、基礎的なプログラムだけではなく、少し応用的なプログラムも書けるようにしていく。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

Ⅰ. 短期目標

1）アクティブラーニング型の手法を多く取り入れる

2）学生の興味関心を引き出す学習教材の開発

Ⅱ. 長期目標

学生が卒業後に本当に役立つ知識やスキルを身に付けられる授業を展開する。そしてそれを主体的に学べるよう学習教材を整備していく。課外活動において授業で習った知識やPCスキルを活用できるように、支援をしていく。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【水曜2限 ゼミナールⅡ(全)小森　　潔】
欠席者がいた場合や、もう一度授業内容を確認したい学生のために、ほぼ毎回授業動画を録り湘北eLearningにアップした。それについて「とても助かった」というコメントが2件あったとともに、設問6や7の評価が平均よりも高い結果となった。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜2限 MOS実践((ビa/2))金澤 良晃】
学生たちに担当の問題を解説発表してもらうアクティブラーニング形式を導入した。また模擬試験を繰り返し解いてもらうことで、高いMOSの合格率を維持することができた。(38/39 = 97.4%)

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜4限 情報科学の基礎(ビ)金澤 良晃】
去年までは紙のテキストを印刷して配布していたが、今年度からは全てデータ(PDF)で配布した。PDF上に書き込みできるように設定し、ペーパーレス化を行った。印刷物が欲しい学生は、自分で印刷してもらうルールにした。データによるテキストは学生から「資料はPDFで分かりやすかったです。」などの好評を得た。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【木曜1限 PC活用ベーシック(ビ(1))金澤 良晃】
今年度から開講した授業である。湘北の他の授業や、就活で必要となるITスキルを身に付けるためにオリジナルテキスト＋市販テキスト(Word、Excel、PowerPoint)の組み合わせでコンテンツを作った。アンケートには書かれていなかったが、一部の学生からは、「オリジナルテキストがとても分かり易く、しっかり何度も読みました。」という声を直接聞くことができた。

■後期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【火曜2限 ゼミナールⅠ＿全【金澤 良晃】】
一人の学生からだが「ペースが速く、追いつくのに大変だった」との意見があった。
既に、毎回の授業を動画に録り湘北eLearningにアップしていたり、個別相談も随時受け付けているので、今後もそれを周知していこうと思う。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【水曜2限 ゼミナールⅢ＿全【金澤 良晃】】
昨年度は、ゼミナールⅡで考えたビジネスアイデアを元に、Wordを使って事業計画書を書きあげるというものだったが、今年度はWebサイトを構築した。今までWebサイトを作った経験がない学生ばかりなので興味を持たせることができた。また自分の創造したアイデアを不特定多数の人に分かり易く説明する情報発信力を育成する場にもなった。Webサイト制作には、世界で最も使われているCMS（Wordpress）を活用した。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【水曜3限 データ分析演習＿ビa/2【金澤 良晃】】
教員がテキストに沿って解説方式ではなく、輪読形式で学生に解説してもらい、その後教員が補足解説をする方式を取った。また企業の実データを使って分析してもらい、それを期末レポート課題にした。
これにより複数の学生から「他学生の解説発表を聴き、考えを深められた」「教科書にない情報を教えてもらえた」「データを分析する力がついた」「社会で役立ちそうなことばかりで、実践的に学べた」などと高評価を得た。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【月曜3限 データ分析演習＿ビb/2【金澤 良晃】】
学生から「学んだことの復習や確認として、中間テストを行って欲しい。」と意見があった。テキストの各章が終わった時点で、簡単な中間テストや課題を課すことを検討したい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【火曜3限 インターンシップリテラシー＿（ビa/3）【金澤 良晃】】
ただテキストを読むだけでは飽きてしまうため、視聴覚教材を準備したり、個人ワークやグループワークなど行った。また目的意識を持たせるため、インターンシップだけでなく就活にもつながる話を随時行った。具体的には、「皆さんは、スパーに並べられたメロンのようなもの。お客さんは似たような商品から、綺麗で美味しそうなものを選んで買う。皆さんは、選ばれるメロンになろう。」という話をしたが、授業レポートから響いたことが分かった。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【水曜1限 デスクワーク入門＿ビa/2【金澤 良晃】】
反転授業で学生たちに解説発表させる方式を取った。それが功を奏し、「毎回の授業で様々な人とペアを組み、協力しながら問題解説を行うことでコミュニケーション能力と、伝える力が身に付いた」「自分たちでパワーポイントを作って説明することで、説明力とパワーポイント作成力を同時に成長すると共に自分たちで分かりやすく説明をすることで情報を記憶しやすかった」などの意見が多かった。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【木曜4限 デスクワーク入門＿ビb/2【金澤 良晃】】
「毎回グループの課題は荷が重かった。」という意見がある一方で、「授業1回1回が発表で頭に入りやすかった。」という意見もあった。また、相互評価のやり方に「納得いかない」という意見がある一方で、「相互評価が自身の成長につながった」という意見もある。
前向きなコメントをくれる学生の方が多いものの、そうではない学生の意見も全て聞き入れると何もできなくなり、学生の成長につながらない授業になるリスクがある。正直、どのようにすれば良いか非常に悩んでいる。

今後対応・改善ができそうなことは、「ペアワークは1人にならないように事前にペアを組まないであとから決めて欲しかった」という意見であるが、これを行う場合は、何度も同じ人とペアを組まないように注意しなければならない。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜1限 事務職のためのExcel応用（VBA）＿（ビa/2）【金澤 良晃】】
前半回次でVBAの基礎を習得したうえで、後半回次でChatGPTを使ってVBAプログラムを書かせることにも挑戦した。また毎回授業のはじめに質問一つ一つ丁寧に答えた。毎回授業動画を録り、いつでも湘北eLearning上で見られるようにした。
これらが功を奏したと考えている。

なお「ひとりでVBAを作る際に、もう少しヒントなどを出してもらえたらやりやすかった」という意見があったため、学生たちの様子を見ながら、もう少しヒントを多めに出していこうと思う。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
✔	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0204	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0404	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0504	インターンシップリテラシー
前期	就業力育成（総合）	1	R5BU0901	PC活用ベーシック
前期	総合ビジネス・情報	2	22510611	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511111	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22517101	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	22517102	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	R3518001	事務職のためのExcel応用（VBA）
前期	総合ビジネス・情報	2	31518501	MOS実践
前期	総合ビジネス・情報	2	31518502	MOS実践
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510109	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509001	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509002	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509003	情報科学の基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	31512501	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	1	31512502	デスクワーク入門

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1・2	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0204	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0404	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0504	インターンシップリテラシー
前期	就業力育成（総合）	1	R6BU0901	PC活用ベーシックⅠ
前期	総合ビジネス・情報	2	22510609	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511109	ゼミナールⅢ
後期	総合ビジネス・情報	2	22517101	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	22517102	データ分析演習
後期	総合ビジネス・情報	2	R3518001	事務職のためのExcel応用（VBA）
前期	総合ビジネス・情報	2	31518501	MOS実践
前期	総合ビジネス・情報	2	31518502	MOS実践
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510110	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509001	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509002	情報科学の基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R4509003	情報科学の基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	31512501	デスクワーク入門
後期	総合ビジネス・情報	1	31512502	デスクワーク入門

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	講師
教員氏名	北川　栄里子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス情報学科の教員として、主に社会で必要となるビジネスマナーやプレゼンテーションなどのビジネス・コミュニケーションに関する授業を担当している。
2023年度の担当科目は、別記のとおりである。
ビジネスマナーやコミュニケーション能力は、あらゆる業種そしてあらゆる職種においても必要となるものであり、就職活動においてもその後の社会人生活においても通用する人材育成は、本学の強みであり、同時に学生自身の強みとして身に付けさせたい最も必要な能力である。ゆえに、入学の時点からその後の社会人生活を意識させ、2年間で社会で通用する能力が身に付くようアクテイブラーニングを多く取り入れた指導を行っている。
「オフィスワークの基礎」では、社会人として必要なビジネスマナーの基礎的な部分についての理解と知識の修得を目標としている。
「オフィスワーク演習Ⅰ」では、「オフィスワークの基礎」で得た知識を、演習を通じ、実践能力として身に付けることを目標としている。
「オフィスプレゼンテーション」では、どのような場面においても、場面にふさわしい的確な方法で表現する力の修得を目標としている。
「現代社会コミュニケーション論」では、世の中の様々な事象に対し、ただ受け止めるのではなく自ら考えて答えをだす力の育成と、現代社会におけるコミュニケーションの在り方を模索させることを目標としている。
「組織心理学」では、社会で遭遇しうる事象に対して、心理学的見地から物事を見ることで、冷静に判断し対処できる人間力の育成に繋げることを目標としている。
また、課外活動では、財務委員の顧問を行っている。課外活動の指導においては、活動方法等についてはこちらから一方的な答えや意見を出さず、学生自身で考え行動し失敗を含めて学びを深めていけるよう、学生の主体性を何よりも重んじている。学生間のメールやラインでのやりとりの際のグループに入り常に活動を見守っているものの、基本的にはこちらから意見を出さず、必要な際のみアドバイスや指導を行い、責任者としての責務だけを負うように努めている。
私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、誰からも信頼されるビジネスマナーと、自ら考える力、それを表現できるコミュニケーション能力、そして変化していく世の中に対応できる感知力や問題解決能力などの人間力を育成することである。これらの教育活動で得た知識や能力を基に、卒業後、円滑に社会人生活をスタートし、良好な人間関係と信頼関係を築き、困難を乗り越えながら幸せな人生を歩んでいけるよう、学生の人生に社会人基礎力の種苗を植えることを責務とする。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。
1）自ら考えて行動し、仲間と協働し共創できる人材の育成
「問題解決力」「計画力」などの『考える力』、「主体性」「実行力」などの『前に踏み出す力』、「発信力」「拝聴力」などの『チームで働く力』、これらの社会人基礎力を強化する。
2）生涯の財産となる実践力の醸成
「知っている」だけではなく、実際に「することができる」、社会生活で役立つの力の養成に努める。
3）学生に寄り添った丁寧な対応
教育とは単なる知識の伝達ではなく、学生の状況や今後の人生に寄り添い、必要な能力を育成することであると考える。一人一人が自信を持てるよう、内面にも寄り添った対応を行う。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。
1. どの科目においても、始めから答えを与えるのではなく、学生自身で考える時間を多くとっている。その際には、解答を探すだけではなく、なぜかという理由の部分も合わせて考えるよう促し問いかけている。このことは、「課題発見力」および「考える力」を養い、様々な物事に対し、技能だけではなく心で対応する「人間力」や「臨機応変に対応する力」の育成に繋がると考える。
　各自が考えた内容については、皆の前で発表する機会を必ず設けている。人前で話すことで、内容を整理し正確に伝えるための「発言力」「表現力」といった「プレゼンテーショ能力」、人の意見にしっかりと耳を傾ける「拝聴力」、そして多様な考えや価値観があることを知りそれを受け入れる「柔軟性」と「想像力」を養う。
　また、グループワークを多く取り入れている。グループ討議を通じて、異なる意見をひとつにまとめる「調整能力」「リーダーシップ」「時間管理能力」を育成する。
2.「知っている」を「できる」ものにするために、知識を実践するための演習の場を多く取り入れている。しかし、演習能力には、かなりばらつきがあることと、人前で何かをするのが不得意な学生も多いため、演習の際には、自信を持ってもらえるよう特に言葉がけに工夫をしている。改善点を指摘するのではなく、必ずいい所を見つけてあげて褒めてから、さらに良くなるためのアドバイスを行い、学生が楽しく自信を持ってステップアップできるよう心掛けている。
「オフィスワークの基礎」においては、1年次前期科目であることから、今後自主的に学びを深めてもらうために、社会人に向けての意識付けを大切にしている。学生でも想像しやすい簡単なケースを題材に、まずは自分で考え意見交換させ、そこででた意見に対して、自分の社会人経験の事例などを交えながら解説し、わかりやすい説明を心掛けている。
「オフィスワーク演習Ⅰ」では、「オフィスワークの基礎」で学んだ内容を、実際に社会で使える実践力として表せるよう、演習を中心とした授業を行っている。皆の前で実技を行い、同級生の実技や意見からも気づきや学びを得るための相互評価制度を取り入れている。
最初は多々指摘したい点があるが、回数とともに自然に改善していく事項についてはあえて指摘せず、本質的な部分のみ毎回アドバイスを行い、失敗しても必ずいい部分をひろってあげることで自信を持てるようにしている。
「オフィスプレゼンテーション」では、状況に応じたプレゼンテーションの手法を教示するとともに、毎回全員に人前で話す機会を与えている。はじめは、ごく身近で簡単な興味がもてる内容を題材とし、小グループ内での意見交換からはじめ、徐々に長さや内容を深めることで、人前で話すことが苦手な学生も、楽しく臆することなく参加できるようにしている。
「現代社会コミュニケーション論」では、考える力の醸成と多様な価値観に触れるを目標としているため、あえて明確な答えを出さず、「考える」作業と「デイスカッション」をメインにしている。理解を深めるために、自分の経験談や意見を毎回紹介しているが、その際には、教員として正解を示しているのではなく、考え方や価値観には正解・不正解がなく、皆と同じ色々な考えのひとつに過ぎず、それに対してどう考えるかの自分の価値観形成の単なる材料として捉えて欲しいことを、予め強調して伝えている。これらの作業を通じて、自分自身の考えや価値観に気づくことで、個々の軸を形成し、今後の人生を乗り越えていく力に
なると考える。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度の学生による授業評価アンケート結果では、どの授業においても学生の満足度が高かった。
コメントでは、「オフィスワークの基礎」に関して、「アルバイトでも活かせることを沢山学べた。選択ではなく必修でもいいと思った。」「この授業で学んだ知識を実際にバイトで生かすことができたから本当にありがたく思っている。毎回の授業の宿題が授業の知識を試す場になり、とてもよかった。ここで学んだことが将来の仕事に行かせられるよう、もっと学びたいと思った。」「社会で生かせるビジネススキルを学べて自分のタメになった」「オンデマンドの際も一つ一つの項目に対して丁寧に進めてくださったので分かりやすく理解しながら進めることができた。前期で学んだことを活かして後期の実践に取り組みたいと思った。」との声があり、学生に実際に社会で役に立つ実践力を身に付けることができたことが実感できた。
また、「オフィスプレゼンテーション」においては、「プレゼンテーション力が鍛えられました！」「オンライン授業では、生徒が見やすいパワーポイントを使って授業をしてくださいました。テーマについてより理解できるような授業でとても分かりやすかったです。」「先生からのアドバイスがある事でつぎにいかすことができるのでとてもためになりました！ 」「スピーチではその場で考えるのが苦手な分初めは順番がくるのが怖い中話し出してみると好きなテーマであることで話せて自分のまだしれなかった面をしれた気がしました！ 」「グループワークになると自分の意見よりもみんなの意見を聞くことが多いのですが先生が私に話す場を設けてくださってとても嬉しかったです！」等、話すことが苦手な学生も楽しみながら授業に取り組み、能力が向上したことを実感してもらえたようだ。
「オフィスワーク演習」においても、「実践が多いかったので今後に役立つスキルが身につきました。」「実践を通して自分が成長出来たと感じた」「様々な実体験のお話をしてくださったからこれから先に役だった」と、実践的なプログラムが成功していることを感じるコメントが多々あった。
「現代社会コミュニケーション論」では、「友達と意見が合う時もあれば合わない時もあったので人それぞれの考え方を理解したり、今後社会でのグループワークにも活かせると思いました！」とのコメントがあり、この授業の目標である、多様性を受入れ自分の意見をどのように表現するかを考えるいい機会になっていることが確信できた。
「組織心理学」では、「具体的に考える時間が多かったところ。先生が学生の考えを否定しないところが良かった。」「とても有意義な授業だった。」「グループワークを積極的に取り入れられていてコミュニケーション力も高められたところがよかった。」「個人ワーク以外にもグループになって考える時間があり、様々な考え方を知ることができた。」「毎回違うテーマで、自分で考えるということを多くさせて貰えたのが大変だったし楽しかったです。」「毎回テーマに沿って考え意見を共有したことによって、理解を深めることが出来た。」「意見交換の機会が沢山あり楽しい」と好意的なコメントが多く、楽しみながら理解を深め、「考える力」「話す力」「違う考えをうけとめる力」を身につけさせることができたようだ。
このように全ての科目で学習成果を感じられるコメントを得られたことは、グループワークや演習などのアクテイブラーニングを多く取り入れ学生が飽きることなく主体的に楽しく取り組めるように心がけた事と、またパワーポイントの資料やオンデマンド動画なども活用しながら理解を深めさせたことが、成功につながったと感じる。

学生支援については、「学生生活の支援」および「就職活動のサポート」について意識的に行った。特に自分のゼミ生に対して、一人一人に寄り添った対応を心がけ、就職活動については、志望理由の書き方などをオンデマンド動画でまとめて春休みに配信し、授業がない時期にも支援を行った。また、個別に相談にのり、エントリーシートの作成などをフォローした。その結果、ゼミの授業アンケートでは、「先生が生徒と一対一となって授業を進めてくれたことで、一人一人に寄り添ったアドバイスなどをいただけたことが良かった」「就職活動の際、履歴書に書く志望動機を一緒に考えてくださりありがとうございました！」「とてもやさしくて誰も置いていなかないように一人一人に寄り添ってくれました」「就活のときも、北川先生が親身になって書類添削をはじめ相談に乗ってくださって、準備万端で臨むことがだきたし感謝しかないです。」とのコメントがあり、一人一人を大切にしていくという思いが学生に伝わったことが感じられた。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善の取り組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。また、学生および他の教職員からの授業アンケートの結果を踏まえ、善点を模索しながら授業をより良いものにするために日々努めている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである
Ⅰ. 短期目標
　1）授業評価アンケートの数値向上
　2）社会のDX化に対応すべく、オンラインでのコミュニケーション能力の醸成
　3）ひとりひとりに寄り添った学生目線での授業展開

Ⅱ. 長期目標
　1）どんな時代でも通用する人間力と社会人基礎力の育成
2）時代の変化に合わせた教材の開発

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【水曜4限 オフィスプレゼンテーション(オ)北川 栄里子】
演習の内容をこちらから提示するだけではなく、一部学生自身にテーマを決めさせた。付き合うなら年上と年下とどちらがいいか。など興味深いテーマが多く、まずテーマ決めの話し合いがとてもよいプレゼンテーションの演習になっていた。実際意見を言い合う演習では、普段グループワークで発言が少ない学生も積極的に発言をしたりデイベートを行っていた。みなに楽しみながら積極的に取り組んでもらえたため、次年度も取り入れたい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【月曜2限 オフィスプレゼンテーション((オ以外)①)北川 栄里子】
学生からのコメントに、欠席者に甘い気がする。とのコメントがあった。この授業では欠席が5回を超えた学生の欠格者も多く出しており、就活での特別措置なども行っていないため、どこでそのような不公平感を与えてしまったのか正直わかりかねているが、就活の場合は欠席は欠席だが課題をだせば課題点はつく(平常点のマイナスにはならない)ことの説明がうまく伝わっていなかったためか、3～4回欠席者が出た際に仲のよい学生に欠席回数が多いのでくるよう声がけを依頼したことが過保護ととられたのか、何かが誤解を与えてしまった原因があるはずである。評価の際には公平であることを一番に心掛けでいるため、誤解のないよう第1回目のガイダンスの際に、評価基準などについてしっかり資料に記載し明確に提示するよう改善を試みる。また、ややわかりにくかった。と回答をしている学生がいた。これは昨年まではほとんどいなかったのだが、同じ科目の他のクラスでも一部そう回答している学生がいた。これもどこがわかりにくかったのか私自身が把握できていないことが一番の問題点であると認識している。他のクラスも含め、とてもわかりやすかった。ためになった。などのコメントもあり、今までも良いコメントの多い授業であったため、学生に合わせることなく、このやり方でいいと思ってしまっていたことが、わかっていない学生がいることに気づかなかった要因かもしれない。改善として、次年度は毎回、どこがわからなかったかなどのリアクションペーパーを活用する。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜2限 組織心理学__(オ以外)③【北川 栄里子】】
基本的にあるテーマにそって、学生に考えさせ意見を共有する授業であるが、昨年までは、2~3の議題についてゆっくり考えさせていた。今年度は、思考力を身に付けさせ、短時間で自分の考えをまとめてアウトプットできるように、議題を倍に増やし、考えるサイクルと量を増やした。自分で深く考える癖のついていない学生にはハードルが高かったかもしれないが、一人一人の発言を大切にし、学生が考えたことは観点がずれていても受け止め、上手く表現できない学生には、「こういうことだよね？」と代弁してフォローを行うことを心がけた。学生アンケートでは、良かった点として、「自分で考えるということを多くさせてもらえたのが、大変だったし楽しかった」「具体的に考える時間が多かったところ。先生が学生の考えを否定しないところ」というコメントがあり、考えることに対する苦手意識をなくし、楽しく取り組んでもらうことに成功したと感じる。最終レポートにも「後期の授業の中で断トツ楽しかった」と書いてくれる学生もいた。毎回一人数回は発言する機会を与え、また飽きないように、個人ワークとグループワークを交互に入れるなども工夫を行った。
コメントでは、「グループワークや発言をする機会がありとても有意義な授業だった。」「グループワークで、様々な意見を知ることができた。」「考えを共有することで理解が深まった。」「意見交換の機会が沢山あり楽しい」「グループワークが積極的に取り入れられていてコミュニケーション能力が高まった」などのグループワークに対する好意的なコメントが多く、グループワークばかりだとおしゃべりに走ってしまう傾向があるが、一つ一つの時間を短くしたことや、個人ワークと組み合わせたという工夫が成功したと感じている。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜3限 組織心理学__シオ【北川 栄里子】】
オンデマンド授業を2回だけトライアルでいれたところ、学生からの良かったところのコメントで、「オンデマンドがあったり色々な授業方法があって良かった」「オンデマンド授業の併用や理解度チェックがあったのがよかった」とのコメントがあり、飽きさせないように、じっくり一人で考えさせてい内容や、過去のつらい体験など人にあまり話したく内容のときはオンデマンドを併用し、皆で盛り上げりそうな話題などはグループワークを多めに取り入れた点がよかったのではと思う。また、「先生が巡回して意見を聞いてくれたり、質問できるのがよかった」とのコメントがあり、今までオフィスワークコースだけでやっていた授業が、ショップマネジメントコースと合同になり人数が倍になってしまったので、教員1対学生多数では、なかなか伝わりにくくなってしまうので、グループワークの際には各グループを巡回し、話がはずんでいないグループの手助けをしたり、おしゃべりばかりしているグループに質問にいくなど、1対少数になることで距離を縮める努力をした。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【月曜3限 組織心理学__シオ【北川 栄里子】】
昨年度よりオリジナルワークシートを作成して、そこに考えを記述させていたが、今年から項目を増やしたため、記述欄が細かくなってしまっていた。「プリントを書きやすいようにしてほしい」との声があったので、書きやすいフォーマットに変更していく予定である。また、「スクリーンをもっと使ってほしい」との声があったため、次年度よりパワーポイントの資料も作成しようと思う。さらに「先生の資料や説明がとてもわかりやすかった。」というアンケートのコメントがある一方で、「少しわかりにくことも多かった」という声もあった。心理用語について、自分ごととしてすぐに落とせる学生とそうではない学生がいるので、そうではない学生にはわかりにくかったと感じさせてしまったのかもしれない。理解度が追い付いていない学生がいないか、よく観察したり、わからないときに質問しやすい雰囲気作りを心掛けたい。特に今回は、昨年より進行ペースを早めたことが、人数の少ないもう1つのクラスでは、好意的なコメントが多数あり成功したと感じたが、人数が多いこちらのクラスでは、理解できないまま進んでいることがないか、より注意深く進行していく必要があったと感じる。同じ内容の授業をしてはいるが、クラスの人数などにより、それぞれに合った対応が必要であると気づき、次年度は人数やメンバーによって授業の進行を計画していく。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【水曜2限 ゼミナールⅢ__全【北川 栄里子】】
2年生後期のゼミは、「湘北祭」の準備と「論文作成」が中心であったが、論文が計画通りに進まない学生が多く、正直なところ試行錯誤しながら、このやり方で果たしてよいのか、論文を完成させられるのかという疑問を抱きながら、その時々の学生の状況に合わせて進行を行うことに努めた。最初の予定では、一人での作業は煮詰まってしまうので、授業では、論文進捗発表と別の課題を組み合わせて行い、執筆は宿題にしていたが、皆が同じところで躓くことと、期限内に課題が出せない学生と、どんどん先に進む学生との進行にかなりの差がでてしまい、授業内に執筆をさせ、一人一人を巡回し、その学生に合ったアドバイスをし、最後に進捗をシェアするスタイルに切り替えた。誰もとりこぼしがないようにフォローしていくこと、先に進んでいる学生を飽きさせないことを両立させることを念頭に進行した。学生のコメントでは、「生徒と1対1で授業をすすめてくれたことで、一人一人にあったアドバイスをいただけた。」「とても優しく誰もおいていかないように一人一人に寄り添ってくれた」とあり、学生の状況に合わせ授業方法に柔軟性を持たせることも大切であると感じた。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0205	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0405	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0505	インターンシップリテラシー
前期	総合ビジネス・情報	2	22510609	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511109	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	22544501	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	22544502	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	22544503	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	26545501	現代社会コミュニケーション論
後期	総合ビジネス・情報	2	23546501	組織心理学
後期	総合ビジネス・情報	2	23546504	組織心理学
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510108	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	26539501	オフィスワークの基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	26539502	オフィスワークの基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	22540501	オフィスワーク演習Ⅰ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（生活）	1・2	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0202	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0402	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0502	インターンシップリテラシー
前期	総合ビジネス・情報	2	22510607	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511107	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	22544501	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	22544502	オフィスプレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	2	26545501	現代社会コミュニケーション論
前期	総合ビジネス・情報	2	26545502	現代社会コミュニケーション論
後期	総合ビジネス・情報	2	23546501	組織心理学
後期	総合ビジネス・情報	2	23546502	組織心理学
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510109	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	R6539501	ビジネスマナー基礎
前期	総合ビジネス・情報	1	R6539502	ビジネスマナー基礎
後期	総合ビジネス・情報	1	R6540501	ビジネスマナー演習

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	講師
教員氏名	鈴木　孔明

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、総合ビジネス・情報学科の学生が社会で活躍するために不可欠な知識とスキルを習得できるよう、担当科目で以下の実践的な指導を心がけている。

〇学生が身近なテーマを取り上げ、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、即戦力となる知識とコミュニケーション能力を高めることを目指している。
〇学生自身に実践的なテーマを調査・研究させ、その成果をプレゼンテーションで発表させている。これにより、自らの習得した知識を他者に分かりやすく伝える能力を養うことを目指している。
〇ビジネスの現場で必要な知識や実務経験を積ませることにより、大学生活での達成感を味わえるよう努めている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が社会で実践的に活躍できる力を身につけることにある。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の2点を重視している。

〇学生のアウトプットする力の育成：
情報過多の現代社会において、知識を単に蓄積するだけでなく、それを他者に伝える能力は重要なスキルである。学生が自分の頭で考え、独自のアイディアを発信できるような授業内容を提供することで、学生のアウトプットする力の育成を目指している。

〇学生の自己肯定感の強化：
学生に自信を持たせる教育は、卒業後の彼らの人生に大きな影響を与える。さまざまな課題に学生が取り組み、達成したときには、心から褒め称えることで、学生の自己肯定感を高める教育を行っている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え（教育の理念）を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

〇「商品・流通の基礎Ⅰ,Ⅱ」では、学生のアウトプットする力を育むため、授業で教えた専門知識を踏まえて、グループディスカッションを行い、学生自身がアウトプットする時間を持てるように指導している。その後、グループごと代表者に意見を発表してもらい、鋭い指摘や意見の時には、新しい発想、素晴らしい考えということを他の学生にも伝え共有している。

〇「マーケティング論」、「マーケテイング戦略論」では、専門知識を伝えるだけでなく、企業の担当者に実践的な課題解決のテーマを与え、学生自身に自ら調査、研究し、発表をさせている。そのことにより、学生のプレゼンテーション能力は日を追うごとに高まっている。良いプレゼンを行った学生には、素晴らしかった点を褒めて他の学生と共有している。

〇「ゼミナール」では、小田急本厚木ミロードと産学連携プロジェクトを立ち上げ、学生に来客促進イベント『湘北夏祭り』を企画、運営、また、小田急電鉄の収益改善について提案を行う「湘北ビジネスアイディアコンテスト」等、社会に出てより必要とされる実践的な力を身に付けさせている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

〇鈴木ゼミが主体で企画・運営を行った小田急本厚木ミロードと産学連携プロジェクト『湘北夏祭り』では、480名ものを超える来客数となり、授業内での販売促進、集客方法の学びが、現場において体現できた。

〇鈴木ゼミ、石崎ゼミ、金澤ゼミの3ゼミ合同で取り組んだ小田急電鉄の収益改善について提案を行う「湘北ビジネスアイディアコンテスト」では、本学と小田急電鉄と行った産学連携プロジェクトとして反響は大きく、各種マスコミ（神奈川新聞2023年7月28日、ローカルTV　鮎チャンネル）で取り上げられた。学生が社会に出てすぐに役立つ実践的な学びを得られる機会を創出した。（添付ファイル参照）

〇ショップマネジメントコースの学生全員が受験する「公益財団法人 実務技能検定協会・サービス接遇検定準1級・2級」においては、コース主任としてプレゼミナールのコース別授業、または、コース必修科目の中で常日頃から受検合格への啓発を行っていた。今年度においては、サービス接遇検定準1級　合格率100%となった。その結果、例年、安定した合格者を輩出していること、また、協会への本学の貢献が高く評価され、昨年の「文部科学大臣賞」に引き続き、「実務技能検定協会　団体優秀賞」受賞に至った。また、個人として、本学総合ビジネス・情報学科ショップマネジメントコースの永島侑折さんが、「サービス接遇検定準1級・日本秘書クラブ会長賞」を本学において初めて受賞することができた。

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

今後も積極的に相互授業参観、FD研修に参加し、他の教員の良いところ（授業法、討論法、学業評価法、教育機器利用法など）を自身の授業の中に取り入れていく。また、成果の出るオンライン授業のコンテンツについても、引き続き、研究していいくつもりである。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次の通りです。

Ⅰ. 短期目標

1）PDCAサイクルを短期間で回し、学生のニーズに即した学びを提供する。
2）アクティブラーニングを積極的に導入し、学生のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させる。
3）最新のIT技術やAI技術を取り入れ、社会で活躍するための即戦力となる知識を習得させる。

Ⅱ. 長期目標

1）学習意欲を高める方法について研究し、そのアプローチを授業に反映させる。
2）現代社会に必要な教育コンテンツの創造や活用に取り組み、社会的に認められる成果を生み出す。
3）年齢や国籍に関係なく、学生が本学で学びたいと思う新たな価値を提供できる教育コンテンツを創造していく。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【金曜4限 消費者行動論(シ)鈴木 孔明】
消費者行動論の授業では、学生の関心を引きつけるために積極的にアクティブラーニングと内容理解を促進するためのさまざまなゲームを導入した。これにより、授業が単なる講義だけでなく、学生が積極的にディスカッションやグループプロジェクトに参加し、実際の消費者行動に対する理解を深める機会を提供した。また、学生たちの授業に対する関心を高め、自発的な学習意欲を高めるために工夫した。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜2限 ゼミナールⅡ(全)小森　　潔】
「ゼミナールⅡ」の授業内容に関して、湘北夏祭りなどの課外活動や3ゼミ合同のビジネスアイディアコンテストなど、多岐にわたる内容を提供した。一部の学生からは、これらの活動が多すぎて時間的に圧迫されたとの声が寄せられた。今後は、授業の質を向上させるために、授業内容の調整を検討し、課題と活動の適切な配分を行うべきであると思った。これにより、学生が深く授業内容に取り組む余裕を持ちつつ、実践的な経験も得られるように取り組んでいきたい。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【木曜1限 マーケティング戦略論__シ【鈴木 孔明】】
実企業の実践的なマーケティングについて、担当者から学ぶ機会を増やした。また、学生自身にそれらの調査・研究をさせ、企業の担当者にプレゼンテーションを見てもらう取組を行った。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【火曜3限 インターンシップリテラシー__(ビc/3)【鈴木 孔明】】
アンケートの中で、教科書を読むところは自分だけでよいとの回答を受け、テキストの朗読の時間を減らして、より実践的にグループワークを行う時間を増やすよう次年度から改善していきたい。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
✔	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
✔	教材・配布資料	
✔	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

神奈川新聞2023年7月28日

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（生活）	1	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0206	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0406	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0506	インターンシップリテラシー
前期	総合ビジネス・情報	2	22510612	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511112	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	22532501	マーケティング論
後期	総合ビジネス・情報	2	26530001	マーケティング戦略論
前期	総合ビジネス・情報	2	25538501	消費者行動論
前期	総合ビジネス・情報	2	26525005	商品・流通の基礎Ⅰ（留）
後期	総合ビジネス・情報	2	26506005	商品・流通の基礎Ⅱ（留）
前期	総合ビジネス・情報	1	26525001	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525002	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525003	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525004	商品・流通の基礎Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506001	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506002	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506003	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506004	商品・流通の基礎Ⅱ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510110	ゼミナールⅠ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	リベラルアーツ（総合・生活）	1	R6LA1101	湘北リベラルアーツⅠ
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	リベラルアーツ（生活）	1・2	R5LA1501	ビジネスに役立つ教養とDX
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0203	春季インターンシップ（長期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0403	春季インターンシップ（短期）
後期	インターンシップ（総合）	1	26IS0503	インターンシップリテラシー
前期	総合ビジネス・情報	2	22510610	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511110	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	22532501	マーケティング論
後期	総合ビジネス・情報	2	26530001	マーケティング戦略論
前期	総合ビジネス・情報	2	25538501	消費者行動論
前期	総合ビジネス・情報	2	26525005	商品・流通の基礎Ⅰ（留）
後期	総合ビジネス・情報	2	26506005	商品・流通の基礎Ⅱ（留）
前期	総合ビジネス・情報	1	26525001	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525002	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525003	商品・流通の基礎Ⅰ
前期	総合ビジネス・情報	1	26525004	商品・流通の基礎Ⅰ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506001	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506002	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506003	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	26506004	商品・流通の基礎Ⅱ
後期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510111	ゼミナールⅠ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	講師
教員氏名	畠山　望

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学総合ビジネス・情報学科の教員として、主に国際理解科目と観光ビジネスコースの授業を担当している。2023年度の担当科目は、別記の通りである。

「ジェネラル・イングリッシュI」と「ジェネラル・イングリッシュII」では、基本的な英文法を身に着け、実践的なコミュニケーション能力を獲得することを目指している。英語習熟度が一番低いのクラス（L学科の1クラス）を担当しているため、もっとも重要視しているのは、英語に対する苦手意識を無くし、英語を使ってコミュニケーションをとることに楽しみを見出すことである。

「ジェネラル・イングリッシュI・II」では、3か月間オーストラリアに留学する学生が英語の4技能をバランスよく習得することを目指している。教科書に補足する形で、海外で生活するための英語表現や知恵を伝え、留学先での生活をイメージできるように心掛けている。

「外国書講読」では、中級から上級の難易度の英文の内容を理解することで、英語能力のみならず、文章を根気強く読む力と想像力を養うことを目的としている。英語で書かれた文章を表面的に理解するだけではなく、その背後にある社会的、文化的な情報について考え、知識を深めるトレーニングを行っている。

「TOEIC（初級）」では、英語力とTOEIC受験力の二方向からアプローチしている。学生が3か月でスコアアップを目指し、400点以上を突破できるように、テストの性質を十分に理解させ、基礎力とある程度のテクニックを身に着けることを目的としている。

「ベーシック・ビジネス英語」では、中等教育、そして湘北での1年半で築いてきた基礎英語力を実践の場で生きる英語に繋げるために、ビジネスシーンで活用できる英語表現や語彙を身につける授業を展開している。学生が卒業後に多種多様な業界で就労することを前提に、汎用性の高い英会話能力をつけることができるように授業を設計している。

ゼミナールでは、異文化理解と異文化コミュニケーションとテーマとして取り上げている。今後ますます多文化共生が進む社会で生きていく学生が、自己と他者を俯瞰的にみることができる力を習得することを目的としている。また、2年生の後期（「ゼミナールIII」）では1年間勉強してきたことを卒業論文としてまとめるための思考能力、文章能力、構成力を養うための指導をしている。

課外活動では、国際交流委員会の顧問として、約40人の学生を指導している。国際交流委員会は、湘北短期大学の中で最大級の団体で、年間を通して数多くのイベントを企画・実施している。また、全学組織であるGCセンターの活動にも関わっているため、委員が計画性と責任を持ち、体系的に動くことができる組織作りをすることが重要である。そのため、顧問として、主に4人のリーダーと班長にコミュニケーション力、組織運営力、指導力を身に着けさせることを意識しながら、日々、指導に当たっている。

私の教育の責務は、教育活動を通じて、丁寧に、取り残される学生がないように指導することである。また、小さな自信を積み重ねさせ、自分で考え、前に踏み出す力をつけさせたいと願っている。そのためには、よく個々の学生を観察し、小さな変化や成長に気を配り、時には叱咤激励し、時には成長を評価することが責任であると感じる。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1）学生が小さな学びと自信を積み重ねて、成長できるように試行錯誤しながら指導すること。
「1. 教育の責任」でも述べた通り、教育活動で最も大事なことは、学生が自信をつけ、自主的に学ぶ姿勢になる道筋をつけることである。そのためにも、学生の状況や習熟度を考慮しながら、一人一人に合った教育方法を模索することが肝要であると考える。

2）専門知識を修得し、新しく、理解し易い授業を展開できること。
自分の専門分野（英語、異文化理解）のみならず、アクティブラーニングやオンライン教育など、時代のニーズに合った教授法に関する知識を得て、確実に授業に反映するように努める。

3）課外活動を通して、学生が責任感を持ち、達成感を得ることができるように指導すること。
本学では学業のみならず、課外活動も人間形成の礎だと考えている。学生に課外活動に従事する意義に気付かせ、達成感を味わうことにより、次の企画に対するモチベーションを上げて行く好循環サイクルを創出できるように指導する。学生時代に体系だった課外活動に従事し、企画、準備、運営を行うことは、社会にでてから確実に役立つスキルに直結すると考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上記の考えを実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「ジェネラル・イングリッシュ」では、英語習熟度の一番下のクラスを担当しているため、学生を褒めることにより、自信をつけさせ、宿題や課題に前向きに取り組むように促している。ゲームを取り入れたり、優秀な解答をした学生にはシール配布したりなど、学びをゲーム感覚で楽しめる仕掛け作ることを心がけている。「外国書講読」、「ジェネラル・イングリッシュ」、「ベーシック・ビジネス英語」ではタブレット画面をスクリーンを映し出したり、画像・映像を使用することにより、視覚・聴覚に訴えかける工夫している。視覚や聴覚から情報を与えることにより、緩急のある、退屈しない授業づくりをしている。

2)「TOEIC(初級)」では2022年度に引き続き、Wordで作成した配布資料を配った。TOEICを専門に研究している方々の書籍を幅広く購読し、強調すべきポイントや教授テクニックを学んだ。その際に、湘北の学生の習熟度に合わせて情報を取捨選択しながら、資料を作成した。また、新規科目「ベーシック・ビジネス英語」では、適宜、実際のビジネスの現場で起こりうることを私の経験談から紹介した。自らの米国の企業で勤務した経験のみならず、収集した最新のビジネス情報を大いに活かし、学生の興味を惹く授業内容を提供するように心掛けている。

3)課外活動の指導において、2023年度に意識したのは、「学生に責任感を持たせると同時に、適切に仕事を振る能力をつける」ことである。学友会活動での言動は、自分の所属する委員会だけではなく、学友会全体や他の委員会の学生・教職員にも影響を及ぼす。学友会への提出書類や、リーダーズキャンプに於いての資料や発表内容など、外に出しても支障のない質のものを作成するように指導した。その中でも特に、リーダーズキャンプで使用するPowerPoint資料の添削と委員長の発表の内容とデリバリー(声の大きさ、話すスピード、表情・姿勢、時間の厳守)の指導に力を入れた。教職員や他の学生の貴重な時間をいただいて発表しているからには、正確で、分かり易い発表をするべきだと考えるため、このような指導をした。また、リーダーや班長には、自分たちだけで抱え込まずに、周りの委員に積極的に仕事を振ることを促した。仕事をしてもらうことは、「申し訳ないこと」ではなく、「仕事を振られた委員の成長に繋がる」ということを意識させるようにしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2023年度で一番成果が大きかった科目は、新規科目の「ベーシック・ビジネス英語」である。授業評価アンケートでも、全ての設問において平均よりも高いポイントを得ることができた。これは、英語を使用するビジネスシーンを想起させるようなビジュアルを使ったPowerPointを使用したり、私の英語圏での就労経験に基づいた話を織り交ぜ、緩急のある授業作りをできた結果だと受け止めている。

「TOEIC(初級)」においては、受講生名の7月と1月のスコアを比較すると、平均25点アップだった。2021年度(平均41点アップ)と2022年度(平均68点アップ)に比べると、残念ながらかなりのスコアダウンであった。スコアダウンの理由の一つは学生のモチベーションが今ひとつ上がらなかったことである。私自身、15回の授業で7つのパートを教えることに精一杯で、就職活動前にTOEICを受験する意味や、TOEICの学習が将来、何に繋がっていくのかを伝えることに時間を割かなかった。次年度は、授業内容を研鑽し、学習に対するモチベーションを高める仕掛けを組み入れると同時に、15回の授業で教える内容の取捨選択を慎重に行っていきたい。

課外活動については、2022年度に引き続き、エクスチェンジ・プログラムを実施することができた。国際交流委員会に所属する2学年の学生数は今年度も40名程度で、その中でも積極的に活動している学生は半分以下であった。そのような厳しい状況下で、リーダー4人を中心に15程度の企画を実施することができた。何よりも、学生がエクスチェンジ・プログラムを実際に体験することにより、国際交流活動の楽しさを実感し、来年度の活動のモチベーションに大きく繋がったと感じる。次年度はオーストラリアニューカッスル大学からの学生に加え、台湾の国立暨南国際大学の学生、計30名がエクスチェンジ・プログラムに参加予定である。かなり準備が必要になるが、委員には2023年度の経験を活かして、臨んでもらいたい。

5－1. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

教育改善の取り組みとして、次年度以降の目標は二つある。

一つ目は、TOEIC L&RテストとTOEIC Bridge L&Rテストの対策のために、引き続き、オリジナルの教材作成や動画の精度をあげることである。2021年の教育改革支援プログラムで採用していただいた「TOEIC L&RテストおよびTOEIC Bridge L&Rテストのスコア向上に向けた動画コンテンツおよびオリジナル教材の作成」の成果として、「湘北TOEICチャンネル」の基礎を作ることができた。これまでは当該チェンネルはTOEIC科目と山形教授のゼミの履修者を主に対象としていたが、今後は、全学生に広く活用してもらうために、内容の整理と強化を行う。今年度はTOEIC指導者のための研修である「TOEICテスト スコアアップ指導者養成講座」に参加することができた。そこで得た知見を生かし、学習者が自分の習熟度や学習段階に合わせて学習を進められるように「湘北TOEICチャンネル」を整備していく。さらに、TOEIC対策のためのオンライン教材のみならず、オンラインの英語レメディアル教材の作成を進めたい。そのためには、現在進行中の「湘北TOEICチャンネル」の動画作成を通して、教授法や映像編集のスキルを磨き、知識を蓄積していく必要がある。

TOEIC Bridgeについては、2022年度に引き続き、「ジェネラル・イングリッシュ」（B学科・L学科）と「英語」（保育）で対策のための教材を作成し、非常勤講師の先生方にご協力いただき、年度末の数回の授業内で対策を行うことができた。2024年度は、TOEIC Bridge対策の内容をさらに充実させるべく、非常勤講師の先生方のフィードバックもいただきながら、学生がスコアアップを狙うことができる教材を開発することを目標としている。

二つ目は「ゼミナール」と「イングリッシュ・ライティング」に①段階的なライティング学習、②効果的なピアレスポンス制度を導入することである。「ゼミナール」については、2年前期の「ゼミナールII」から、卒業論文執筆に向けて、レポート・卒業論文の書き方を教えていく。その際に、文章作成の正しい作法、伝わる文章の書き方、文章の構成、情報収集の仕方と出典表記の方法等、段階的に学習して行く予定である（①段階的なライティング学習）。入職以来、「ゼミナールIII」（2年後期）で卒業論文を課してきたが、学生のライティングに対する知識が足りないために、執筆に苦労する学生が多かった。これまではその場その場で、ライティングについての知識を紹介して行ったが、より体系的に教える必要性を感じたため、2024年度は計画を前倒しし、「ゼミナールII」（2年前期）よりライティング学習を始める。また、同時に学生同士がお互いの文章を添削し、修正を繰り返すピアレスポンス制度の導入も考えている（②効果的なピアレスポンス制度）。上記の試みは論文としてまとめ、2024年度湘北紀要に投稿する予定である。

新規科目「イングリッシュ・ライティング」（1年前期）は、1年後期にオーストラリアに3ヶ月留学する学生を対象にしている科目である。現地の語学学校では、英語4技能の中でも、アウトプット力である、スピーキングとライティング力の学習に重きが置かれている。現地のライティングの授業の準備を行い、さらには留学後に英語でレポートや文書を作成できる力を養うために、「イングリッシュ・ライティング」おいても①段階的なライティング学習、②効果的なピアレスポンス制度を導入する予定である。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。
I. 短期目標
1） TOEICとTOEIC Bridgeのオンライン教材の開発を進める。
2）「ジェネラル・イングリッシュ」、「保育」のカリキュラムにTOEIC Bridge対策をより効果的に取り入れる。そのための教材を開発する。
3） ①段階的なライティング学習、②効果的なピアレスポンス制度を「ゼミナール」と「イングリッシュ・ライティング」に導入する。

II. 長期目標
1） 湘北の学生向けのTOEICや基礎英語教材（「湘北TOEICチャンネル」）や書籍の開発をさらに進め、内容もブラッシュアップし、LMSで運用できるような体制を整備する。
2） ライティング学習（日本語・英語）の効果を繰り返し検証し、より効果のある方法を授業に導入する。また、検証結果を論文にして、他教員と共有する。
3） 2）ライティング学習を通して、学生に批判的に文章や情報を読む力、理論的に文章を書く力を身につけてもらう。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

■前期科目■
《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【水曜3限 ジェネラル・イングリッシュⅠ(C)畠山 望】
「Q2 あなたは、1週間にどの位、この授業の予習・復習をしましたか？」で平均2.11ポイントの評価だった。当該科目では、生活プロデュース学科の中でも最も習熟度が低いクラスを担当していることもあり、ゆっくりとした進度で授業を進めている。そのため、各回で教科書で宿題できる箇所も自ずと限られてしまう。補足プリントを作成するなどして、教科書の練習問題以外で、学生が学習内容を確認できる教材を追加し、課題とすることで、授業外での学習時間を増すべきだと考える。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜4限 外国書講読(観留(他))畠山 望】
「Q8 先生の教え方はわかりやすいですか？」では、平均4.0ポイント(2022年前期は3.28ポイント)、「Q9 総合的にみてこの授業に満足しましたか？」(2022年前期は3.38ポイント)では平均3.7ポイントの評価があった。当該科目については、本学で扱うリーディング教材の中でも最も難易度が高いものを使用しているため、これまで、英語基礎力が身についていない学生がついて行けずに、英文解釈がうわべだけに留まってしまうという課題があった。また、昨年度の授業評価アンケートでは英訳のテクニックを教えて欲しいという希望があった。それらの課題を意識し、今年度は要所となる文法説明のみに焦点を当て、訳読のコツを解説に盛り込むように意識した。その結果、高い評価を得ることができたと考える。

■後期科目■
《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》
【月曜2限 ベーシック・ビジネス英語__(BL)(留以外)【畠山 望】】
当該科目は、新規開講の科目であったが、授業評価アンケートの全ての設問において平均よりも高いポイントを得ることができて、安堵している。当該科目が良い評価につなかった理由は大きく分けて2つ考えられる。一つ目の理由は適切な教科書を選定できた点である。教科書に難易度については多少問題もあり、工夫の余地があるが(後述)、ビジネスシーンでよく見られるシチュエーションでの会話を題材に、単語や表現を学ぶことができる教科書であった。文法については詳しく説明されていないため、未だに英語に苦手意識がある2年生にとっても心理的ハードルが少ない教材であったのかもしれない。しかし一方で、アンケートの自由記述でも何人かの学生がコメントしていた通り、易しすぎると感じた学生もいたようである。2024年度も同教科書を採用するが、来年度は補足プリントを使用し、より発展的な単語や表現を紹介して英語中級者以上の学生の満足度を上げたい。二つ目の理由は学生の雰囲気が非常に良かったことである。履修生の多くが、教員に質問やコメント反応したり、ペア・グループワークに大変意欲的であった。私自身も、英語圏での就労経験の話を交えながら授業を行うことができたので、それも学生の好奇心を刺激できたのかもしれない。そのように、学生と教員の化学反応で、15回全ての回で、活気のある授業を展開することができた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》
【火曜4限 CALL演習__観留【畠山 望】】
2022年度まで山形先生がご担当されていた当該科目を今年度から私が担当した。授業評価アンケートのポイントという点では、概ね、どの設問でも平均よりも高かったが、「Q3. この授業を通じて自分が以前より 成長できたと思いますか？」については、3.4ポイントであり、若干、平均の3.46を下回っていた。この数字は、学習効果を率直に反映していると考える。つまり、本科目を履修者が自分の英語力やプレゼンテーション力が向上しているという実感を得られにくかったのだと認識している。その大きな理由は、教員がフィードバックをする時間が十分に取ることが出来なかったからである。本科目は、原稿作成(ライティング力)よりも、英語の発音、イントネーションの置き方、抑揚や間の取り方やボディランゲージを重視している(そのため、私は翻訳機の使用を禁止していない)。しかしながら、原稿作成に遅れが出ている学生は、リハーサルの回(このリハーサルの中で私が各学生にフィードバックをする)までに原稿作成やPowerPoint作成が間に合わず、その結果、リハーサルをせずに本番を迎えた学生も多くいた。そのため、もっとブラッシュアップしたプレゼンテーションができたのでないか、実力がついたとは思えない、と感じる学生がいたのだと考える。この点を改善するために、来年度は、プレゼンテーションの長さを短くしたり、プロジェクトによっては、PowerPointを作成しないものも採用する予定である。大きな3つのプロジェクトで不完全燃焼してしまうよりも、自分たちの成長を実感できる短く、簡単なプレゼンテーションを交ぜ、教員からのフィードバックや自己の振り返りに基づいたより質の高いプレゼンテーションを実施させる予定である。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✔	授業担当科目一覧	
✔	シラバス	
✔	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✔	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
✔	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	国際理解（総合）	2	30GC5001	TOEIC（初級）B
前期（集中）	国際理解（全学科）	1・2	26GC6001	海外英語研修
後期	国際理解（総合・生活）	2	R4GC9001	ベーシック・ビジネス英語
前期	国際理解（総合）	1	26GC0501	ジェネラル・イングリッシュⅠ・Ⅱ
前期	国際理解（生活）	1	26GC0111	ジェネラル・イングリッシュⅠ
後期	国際理解（生活）	1	26GC0211	ジェネラル・イングリッシュⅡ
後期	国際理解（総合、生活）	1	30GC5002	TOEIC（初級）A
後期	国際理解（総合、生活）	1	30GC5003	TOEIC（初級）A
前期	総合ビジネス・情報	2	22510610	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511110	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	R4552501	外国書講読
後期	総合ビジネス・情報	2	31552001	CALL演習
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510107	ゼミナールⅠ

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（全学科）	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
前期	国際理解（総合）	2	30GC5001	TOEIC（初級）B
前期（集中）	国際理解（全学科）	2	26GC6001	海外英語研修
前期（集中）	国際理解（全学科）	1	R6GC6001	海外研修
前期（集中）	国際理解（全学科）	1	R6GC6002	海外研修
後期	国際理解（総合・生活）	2	R4GC9001	ベーシック・ビジネス英語
前期	国際理解（総合）	1	R6GC3001	イングリッシュ・ライティング
前期	国際理解（生活）	1	26GC0111	ジェネラル・イングリッシュⅠ
後期	国際理解（生活）	1	26GC0211	ジェネラル・イングリッシュⅡ
後期	国際理解（総合、生活）	1・2	30GC5002	TOEIC（初級）A
後期	国際理解（総合、生活）	1・2	30GC5003	TOEIC（初級）A
前期	総合ビジネス・情報	2	22510608	ゼミナールⅡ
後期	総合ビジネス・情報	2	22511108	ゼミナールⅢ
前期	総合ビジネス・情報	2	R4552501	外国書講読
後期	総合ビジネス・情報	2	R5552001	イングリッシュ・プレゼンテーション
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510108	ゼミナールⅠ

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2023　～　2024
所属学科	総合ビジネス・情報
職名	助教
教員氏名	三輪　基敦

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は総合ビジネス・情報学科の教員として、主にプログラムに関する授業を担当している。
2024年度の担当科目は、別記「7. 担当授業一覧」のとおりである。

「プログラミング基礎演習」、「Linux」、「組み込みプログラミング演習」、「IoT」では
副担当として、学生と一緒にプログラムのつまづきを解決することで、プログラムへの
抵抗感を軽減し、学生がプログラムスキルを積極的に修得すること目指している。

「プロジェクト実践I・II・III・IV」ではグループワークを通じて、学生が主体性をもって
計画・制作・報告できる能力を修得することを目指している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、目標に向かって踏み出し、達成する能力を
身につけさせることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の点を重視している。

1)学生が自信をもって行動できるようになる

2)専門知識の学修を通じて技術的なコミュニケーションができるようになる

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上述の考えを実現するために、担当する授業において次のように取り組む。

・プログラム系授業では、作業の手が止まっている学生に積極的に声掛けをし、
プログラムに対する早い段階での苦手意識が生じないように指導する。またできなかった
理由のヒントを説明し、次回以降自己解決できる能力が身につくように指導する。

・プロジェクト授業では、その都度の目標を明確にし、目標を達成することで得られる
充実感を共有できるように指導する。またその際、学修した知識をもとにした発言に
なるように指導する。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

（2024年度着任のため記載なし）

５－１. 教育の改善に向けた今後の目標　（今後どうするか）

学内で実施される相互授業参観やFD活動に積極的に参加し、良いと思われる取り組みを 積極的に取り入れ、学生指導の向上に努める。

５－２. 教育の改善に向けた今後の目標　（授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り）

（2024年度着任のため記載なし）
（2024年度着任のため記載なし）

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

（特になし）

・関連リンク・別途資料

（特になし）

・特記事項

（特になし）

7－1. 担当授業一覧（2023年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名

7－2. 担当授業一覧（2024年度）

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	リベラルアーツ（総合・生活）	1	R6LA0401	情報リテラシー（データサイエンス入門）
後期	インターンシップ（総合・生活）	2	30IS0601	インターンシップティーチング
前期	総合ビジネス・情報	2	28562501	Linux
後期	総合ビジネス・情報	2	R2567501	IoT
前期	総合ビジネス・情報	2	R2579501	プロジェクト実践Ⅲ
後期	総合ビジネス・情報	2	R2580001	プロジェクト実践Ⅳ
前期	総合ビジネス・情報	1	22509501	プレゼミナール
後期	総合ビジネス・情報	1	22510102	ゼミナールⅠ
前期	総合ビジネス・情報	1	28501001	プログラミング基礎演習
後期	総合ビジネス・情報	1	R5568001	組み込みプログラミング演習
前期	総合ビジネス・情報	1	R2578501	プロジェクト実践I
後期	総合ビジネス・情報	1	R2579001	プロジェクト実践II

以上